金光学園

やつなみ

2016.12

246号

体育会

ほつま祭

子どもと共に

大本　幸江

我が家は現在、主人、主人の母、祖母、息子と私の5人家族です。長女の小学校入学後に不便を感じ、四世代同居を始めました。

それまでは核家族でしたので、少し不安なことも多少ありましたが、今では、皆で一緒に生活できることの感謝を日々感じています。同居を始めて12年ほど経ちましたが色々なことがありました。8年前には義父が亡くなり、しばらくは家族誰もが淋しさを感じながら生活していました。義父は、「子どもは、親の所有物では無く、世の中に出て行くまで預かっているだけ、親から離れた時、その子どもが困らないように、出来れば、人のお役に立つような人間を育てることが親の役目だ」とよく口にしていました。私はこの言葉を日頃から心に留めておき、子育てで悩んだときなどはこの言葉を思い起こしています。いわばこの言葉は私の子育ての原点のようなものとなりました。

主人の母や祖母には、私の出来ない事（普段の家の掃除と洗濯から、時には夕食の準備まで）をしっかりカバーしてもらっています。そのお陰で、私も学園での行事には、ほぼ皆勤で出席し、親子で楽しい思い出を頂いています。

祖父母の積極的な子育てへの手助けのお陰もあり、長女は、のんびりと育ち、18年間、これといって心配することもなく（特に学生時代は学園でしかできないような経験を存分に味わって）親元を離れて行きました。親が近くで成長を見守り、子どもと一緒に過ごすことが出来る時間というのは本当にあっという間に過ぎるものです。

今、我が家で一人の子どもとなった高校2年生の長男には、集中して目が届くので、何をしていても、しなくても心配で、出来るかな?ホントに大丈夫?もっとしっかりして!もっと自分に厳しく…と、旅立ちを前にした焦りにも似たようなものを感じる事もあります。この私自身の焦りも、子どもの成長を身近で見られる時間がわずかとなってきた証拠だと認識しています。しかし、そんな時こそ義父の言葉を思い出し、そっと見守るように心がけています。これから子どももまた進路のことなどで壁に突き当たるかもしれません。親が子どもに直接できることは、もうほとんどなくて（弁当作りくらい?）、けれども「ナンバーワンにならなくてもいい、元々特別なオンリーワン」な存在なんだという思いを伝え続けていきたいと思います。

わからなくて迷ったり戸惑ったりすることもありますが、近くに色々な世代の色々な考えを持った大人がいてくれてよかったなと思います。私が助けられた以上に子ども達がのびのびと過ごすことのできる環境で育った影響は大きいと確信しています。三世代に囲まれて育った息子がこれからどのような未来を歩むのか楽しみに、近くで見られる残り少ない日々を感謝して過ごしたいと思います。

（金光学園やつなみ保護者会　副会長）

目　次

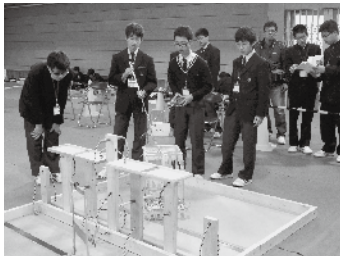
巻頭言……1
金光学園創立122年記念式……2
道(16)……12
活躍する卒業生　丸山　裕美子……14
やつなみ保護者会のページ……16
やつなみ保護者会研修旅行……18
会報……19
友愛セールの御礼……20
ある日のホームルーム……21
探究授業報告……22
メタセコイヤ……24
活躍おめでとう……28
SSH宿泊研修記……35
SGH関連委員会……38
仁川訪問研修……42
修学旅行……46
体育会……57
ほつま祭……62
生徒入賞作品……66
生徒会活動……70
学園だより……81
教室の窓から・編集後記……84

部活動紹介

電気科学部

中高あわせて約20名の部員で活動をしている。活動場所はA校舎2階。中高と分かれそれぞれで作業を行っている。

電気科学部とはなっているけれど、活動の中心はロボット作り。新入生歓迎会、一日入部、オープンスクール、ほつま祭では部員が作製したロボットを使って、部活動のPRを行ってる。中学生は9月にある仁科ロボコン、11月の創造アイデアロボットコンテストへの出場、高校生は9月の仁科ロボコンへ出場し、4月から取り組んで作り上げたロボットで上位を目指して、作製を行っている。ロボコンが終わって次の年のロボコンのルールが発表になるまでの間は、ロボットつくりの基礎をやり直したり、コンピュータの学習も行っている。



仁科ロボコンは、岡山県内で行われているロボコンでも有名であり、県内から多くの学校が参加している。金光学園は第1回目から連続で出場して、頑張っている。また、中学生の創造アイデアロボットコンテストにも連続出場しており、中四国大会への出場も果たしている。

毎年変わるロボコンのルールに対応すべく、部員がどのようなロボットを作り上げているかを考え、それをもとにロボットを作っている。

中学では創造アイデアロボットコンテストで全国大会出場を、高校では仁科ロボコン上位入賞を目標として、日々取り組んでいる。

ソフトテニス部

現在、中高男女合わせて約80名が在籍している。放課後になると中学棟前のテニスコートに部員が集まり、打球音が響く。部員のほとんどは中学校からソフトテニスを始めており、県大会出場や県大会での勝利を目標にしている。ジュニア育ちの選手にはなかなか勝てないが、今年の7月には、高校男子の黒川・石原ペアが20年ぶりに中国大会出場を果たした。

ソフトテニスは日本生まれの競技で、部活動を中心に子どもから高齢者まで親しめる生涯スポーツとして広く普及している。ラケット競技は個人種目のイメージが強いが、ソフトテニスはダブルスを基本として発展した。ペアでの連係プレーが見所であり、団体戦が重要視されるのも日本生まれならではである。また、1ゲームが4ポイント先取と短期決戦で決まるため、その日のコンディションやメンタルの状態が試合を大きく左右する。

そのため、練習では、技術だけでなくペアやチームとの協調性や精神力を高めることが求められる。中高6年間を通して技を磨き、体を鍛え、心を強くする。そんなソフトテニス部を目指して、今後も切磋琢磨していきたい。

金光学園創立122年記念式

金光学園創立122年記念式が、11月16日、厳かに挙行された。曇り空の中、朝8時15分、校長と生徒代表（高3岡野敢太君、中3山本幸歩さん）が本部広前に参拝し、教主金光様にお礼のお届けをした。8時35分、全校生徒、教職員揃って本部会堂前より参拝し、その後、教団墓地と初代校長の頌徳碑を巡拝して帰校した。

ほつま体育館に、38名のご来賓をお迎えし、金光学園中学・高等学校の生徒1198名、教職員が一堂に会し、10時に音楽部吹奏楽団と音楽部コーラスによる「神人の栄光」の演奏で祭事が始まった。

まず、感謝祭が行われ、学校法人金光学園理事長代理 神田常務理事の祭詞に始まり、各代表より玉串が奉奠された。

式典では、国歌斉唱の後、25年勤続の水岡清一教諭が表彰を受けた。さらに、花田写真場 花田英彦氏と西江文具店 永井美与子氏に感謝状が贈呈された。続いて校長式辞、金光教教務総長祝辞、生徒代表の所願表明の後、学園歌斉唱で式典は締めくくられた。

休憩の後、11時30分から辻 範明氏（長谷工 コーポレーション代表取締役社長 高23回卒）より記念講演をいただいた。演題は「人生 何事も塞翁が馬 失敗・挫折を恐れるな！」。学園在校時のご自身の写真や校長の写真を披露し当時のエピソードを交え、気さくな語り口で、後輩達の為に熱く語られた。その後、ほつま体育館で全教職員の記念写真を撮影した。

式辞

校長 金光 道晴

11月も半ばを迎え、朝夕は冷たさも感じるようになりました。穏やかな晩秋の今日のよき日に、こうして金光学園創立122年の記念式を挙行させていただきます事は、誠にありがたいことであります。ご来賓の皆様には本日は公私ともご多用の中、ご臨席を賜り誠にありがとうございます。心から御礼申し上げます。

今朝ほどは、創立記念式に先立ち、生徒・教職員そろって金光教本部広前に御礼の参拝をさせていただき、さらに木綿崎山の教団墓地や、初代校長佐藤範雄先生の頌徳碑を巡拝して、先ほど帰校してまいりました。

さて、この創立記念式では、毎年学園の歴史や卒業生などを取り上げお話ししておりますが、本日はこの写真の方、今から11年前に100歳を前に亡くなられた、卒業生の中山亀太郎先生のことをお話させて頂きたいと思います。高校3年生には宗教の時間でもお話ししましたが、授業では、話すことができなかったかったことも含めて、新たな気持ちで聞いて頂きたいと思います。

中山亀太郎先生は5歳の時、列車事故によって両手と左足を失い、右足一本になってしまわれました。大変な事故で、よくもよくも生きておられたと不思議に思えるくらいのですが、手術や治療を受け一命をとりとめることが出来たのであります。

治療を続けていたある時、病院の先生に「坊やはよく頑張っているので何かご褒美をあげよう」と言われ、亀太郎少年は「先生、僕の両手と足を返してくださ

い。手足がなくては学校にも行けません」と頼んだというのであります。

小さい頃には「亀ちゃん手もない足もない。一本足のかかし」とからかわれたりして、つらく苦しい思いもされていましたが、お母さんの深い愛と、厚い信仰によって、慰められ、励まされ、一生懸命頑張ってこられた方であります。

倉敷の中庄小学校から本校に入学されたのでありますが、学園在学中にも真剣に努力をされ、卒業後は東京で苦学をされながら、大学にも進学され卒業されました。

戦争中には文部科学省の仕事をされましたが、戦後は金光教の教師になられ、お道のためにお尽くしになり、最後は東京にある金光教東京寮の寮監の御用をされました。本校の卒業生の中には大変お世話になった方も沢山おられます。

中山先生は大きな障害を背負いながら努力を重ねられ、なんでも一人で出来るようになられます。食事も15センチほど残った腕株に箸を挟んでなさり、口や足で立派な字を書かれ、授業のノートも取ります。カメラで写真を写し、自分で現像までなさいました。時計の修理もされ、

残った片足と腕株と口を使って何でも自分でやられます。

この右側の写真は何をしているところかるでしょうか。右足の指にカミソリをはさみ、机の上に足をあげて、鏡を見ながら髭をそっておられるところの様子です。戦後しばらくの間、金光にも住んでおられたので、私も昔拝見し、自転車に乗っておられる姿をすごいなあと子ども心に思ったこともありました。

私が今日、この中山亀太郎先生の話をしようと思った一番の理由は、今年リオのオリンピックに続いて、9月に行われたパラリンピックで、手や足を失った方や、視力を失った選手たちが、一生懸命頑張っておられる姿に、胸を打たれ、大きな感動を受けたからであります。特に列車事故で両手を失った卓球の選手が口にラケットをくわえて、闘っている姿などには、中山亀太郎先生のことが、重なって思われたからであります。

ここに掲げてある掛け軸の書は、実は今から35年前の創立87年の記念式の時に、書いていただいたものであります。まだその時は、このほつま体育館は建っていませんでしたので、隣の小体育館で生徒にお話をされましたが、講演後この左の写真にあるように口に筆をくわえて書かれたのが、この書であります。当時、私はまだ20代の若い時でしたが、その時のことが強く印象に残っています。この書は、草書で書いてあるので、読みにく

いかと思いますし、後ろの人はよく見えないと思います。普段は宗教教室の床の間に掛けていますので、高3の生徒は毎週見ているものでありますが、高2以下の皆さんは、また見に来てください。

向かって右の行から「真剣に苦しみ真実に生き」左側に「運命を愛し　運命を生かす」と書いてあります。その記念式の時、中山先生が生徒にお話しくださったことの一部を紹介いたします。次のようなものであります。

「私には両手がありません。片足があります。手が無いとか、足が無い状態を、不幸というのでしたら、私は生涯不幸をなくすことはできません。しかし私には、右足が一本残されています。私にはまだ幸せが少し残されているのです。どんな不幸な人も、どこか少しは幸せが残されているものです。眼の見えない人でも、まだ耳が聞こえます。眼の見えない耳も聞こえない人でも、まだ手が動き足が動きます。広い世の中には、眼も見えず、耳も聞こえず、その上に手も足も動かぬと言う人があるかとも思いますが、その人でも、お菓子を食べると、おいしいと感じ、お風呂へ入ると気持ちがよいのです。

このように考えていきますと、どんな不幸そうな人にも、必ず幸せなところはあると思います。自分の不幸せを嘆く人は、不幸せな所ばかり見て、有り難い所に気がつかないのです。私は、残っている幸せを見つけ出して、それを風呂敷のように広げて、その幸せの中に不幸せを包んで、外へ出さないようにすればよいと思っています。暗いところで、マッチ一本つけても明るいように、幸せの光が真上から輝けば、不幸せの影は消えていきます。

…運命を呪い、運命を憎むから、苦しみが生まれ、悩みがあるのだ。呪うとか憎むという反対の心になれば、楽になれるということに気づきました。憎むとかのろうの反対は、愛するということです。愛するということは、愛するもの生かすことです。」

このように申されて、そして終わりに、「手がないとか、足が無いとか、身体に劣等感を持つ時は、無論のこと、様々なことで他人と比べて引けめを感じた場合には、境遇を呪ったり、憎んではなりません。引けめを誇りにすることだと思いま

す。引けめを誇りにする生活とは『真剣に苦しみ真実に生き　運命を愛し　運命を生かす』ことによって出来ると思います」と話してくださいました。この掛け軸の言葉であります。

私たちは日常の生活の中で、苦しい事、辛いことに出会うと、ついついその苦しみから逃れ、楽になりたいと思ってしまいます。そして、自分で超えられそうにない困難なことを、自分自身でしっかり受け止めることなく、社会のせいにしたり、人のせいにしたりしてしまいがちです。本当は自分自身の努力で解決し、乗り越えていかなければならないのに、諦めたり、逃げていってしまっているのであります。

私たちは中山先生のように、本当に「真剣に苦しみ、真実に生きている」のでしょうか。自分の「運命を愛し、運命を生かす」ことができているでしょうか。中山亀太郎先生は、ご自身の生き方や言葉を通して、私たち後輩たちを叱咤激励してくださっているように思えてなりません。

どうぞ皆さんもこの偉大なる大先輩のことを心にとめて、自分の「運命を愛し、運命を生かし」ながら、ここからの日々の学園生活を送っていって欲しいと思います。最後に学園の合言葉を申し上げて、式辞とさせていただきます。「人をたいせつに　自分をたいせつに　物をたいせつに」。

金光教教務総長祝辞

西川　良典

本日は、創立122周年となる記念式を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

本学園の創立を振り返りますと、初代校長の佐藤範雄先生が、金光教の教祖である金光大神様にまみえられたことに始まります。先生が初めて教祖のもとに参拝された時、「人を助ける身になれ」とのお言葉を受けられました。それ以来、足繁く教祖のもとに参拝される中で、次第に「人が助かるための学校」「世と人のお役に立つ人材が育つための学校」の必要性を感じられるようになりました。

そして、明治27年11月29日、本学園の前身である神道金光教会学問所が創設され、金光教の教えをもとに「学・徳・体」一体の全人教育を目指すこととなり、以来、今日まで、生徒一人ひとりの個性を

大切にしつつ、「心の教育を土台にした人間教育」という教育方針のもとに学校教育が進められ、本日ここに、創立122年の記念式を迎えられましたことは、私どもにとりましても、まことに感慨深いものがございます。

さて、金光教祖は「天が下の者はみな、神の氏子である。天が下に他人はない」「人の身が大事か、わが身が大事か。人もわが身もみな人」と教えられました。

私たちは一人ひとり個性をもち、喜びや悲しみ、楽しみや苦しみをそれぞれに持ちながら生きています。そんな違いがありましても、みな等しく、天地の親神様から命を授かり、限りない慈しみを注がれ、生かされている神のいとし子であります。そして、目には見えませんが、そのような神様のお働きの中で、たくさんの人や物のお世話になって生きているのです。

そうした神のいとし子として、限りない天地の恩恵に感謝し、互いの命を尊び合い、共に助け合って生きていってほしい、という教祖の願い、神様のお心が、「人をたいせつに　自分をたいせつに　物をたいせつに」という、本学の合い言葉に込められているのだと思います。全校挙げて、合い言葉の実践に努められておりますことはまことにありがたく、素晴らしいことです。卒業後も、人生の指針として大切にしていただきたいと願っております。

最後になりますが、本日、永年勤続表彰並びに感謝状をお受けになられた方々には、それぞれの持ち場にあって、実意に職務に尽くしてこられました。そのご努力に対し、心から敬意を表します。また、法人関係の方々をはじめ、校長先生、教職員の皆さまには、今日まで学校の運営・教育の上に、ひとかたならぬご尽力を頂いておりますことをあらためて厚く御礼申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

（財務部長　山下　輝信　代読）

所願表明

生徒代表　高3　目黒　達之

私の、皆さんの大好きな金光学園は今日で122歳の誕生日を迎えました。いつも親身に相談にのってくださる先生方、一緒に最高の時間を過ごしてくれる仲間たち、廊下で会うと優しい言葉をかけてくれる後輩たち、学園で皆さんと過ごせる

日もあと少しになってきました。

学園122歳の誕生日を迎える今日、これまでの学園生活に思いをはせ、この後に続く長い道のりへの一歩を踏み出します。

学園と偉大な先輩方は激動の時代を122年間歩み、伝統のバトンを私たち在校生に託されました。今年も心に残る出来事が多くありました。5月には現職の米国大統領としては初めてオバマ大統領が広島を訪問されました。広島・長崎での悲しみを二度と起こさないよう、世界に向けての教訓にしようと訴えられた大統領の姿に深い感銘を受けました。

また、複雑な気持ちがあると思いますが、私たち後世のために自らの経験を語

り継いでくださる被爆者の方がおられます。広島でオバマ大統領の手を強く握りしめメッセージを届ける被爆者の方の姿は忘れられません。同時に、「今を生きる私たちが彼らの残してくれた平和への思いを次世代に引き継いでいくんだ」と決意した瞬間でした。私は夏にアメリカの

高校生と被爆者の方の話を聞く機会がありました。そこでは、アメリカの学生と私たちの手で平和な世界を築きあげていこうと言い交わしました。

8月には、世界中の国々が参加する平和の祭典オリンピックが開催されました。互いの国を認め合い、共通のルールのもと、国旗を背負って戦う雄姿は今でも目に焼き付いています。本番の一瞬に長い年月をかけてきた選手たちの思いと努力は、はかり知れません。選手たちを見ていると、勇気をもらい、最後まで一つのことをやり抜く素晴らしさを学びました。

オリンピックに続いて行われたパラリンピックも大きな感動を残してくれました。それぞれハンディキャップを背負いながらも、自分の出せる最大限の力を出し切る工夫をし、頑張る選手の姿に本当に励まされました。できない理由を探すのではなくできる理由を探すことが大切だと改めて感じました。人生は、全てがうまくいくわけでは決してありません。上手くいかないことの方が多いかもしれません。大きな壁にぶつかった時、どうするかで、人生は大きく変わると思います。私は上手くいかないことがあると、周りの環境やプレッシャーのせいにてしまうことがありますが、これからはそのような環境の中でも常に自分のベストを尽くしていこうと思います。

そのためにも、今の自分が持っていないものを考え悲観するのではなく、持っているものに感謝し、それを大切にしていくことが重要です。

このような考え方を教えてくれたのは、人権教育でお話をしてくださった竹内昌彦先生です。先生は小学3年生の時に失明され、本当に大変な苦労・苦難を乗り越え勉学に励まれ、盲学校の先生として、目の見えない子供たちに勉強を教えてこられました。現在は講演会で自らの経験を語られ、多くの人々を励ましておられます。また、日本のみならず海外の目が見えない子供たちのための学校も作っておられます。先生の講演の中で、私が特に感動し皆さんにもぜひ聞いてもらいたいお話を引用させていただきます。

『目の見えない人、聞こえない人がいるけど、今皆さんの目は見えるし、耳は聞こえるでしょう。そうしたらそれを持って幸せになっていただきたい。だけど自分の幸せを全部自分のためだけに使うとしたら、それはどうでしょう?目の見えない人、耳が聞こえない人も同じ人間ですよ。うまいものを食いたいだろうし、幸せを心から祈っている。その人たちのためにみなさんの幸せの一%でいいから出してやってもらいたい。「人のためになろう」、「優しい心をもとう」と思って生きていってほしい』と語られました。

この話を聞いて、今まで自分が何とも思っていなかったことが、どれほど幸せなことかよく分かりました。毎朝起きたら、家族がいて学校に行くと友達、後輩、先生がいる。そして金光学園という素晴らしい学校で勉強することができる。それは決して当たり前なことではありません。この話は何も障がい者の方に限ったことではないと思います。世界中には満足にご飯も食べることができず、教育を受けられない子どもがたくさんいるのです。

私は学園に入り貴重な経験をいくつもさせていただきました。そこで学んだことは常に挑戦し続けることの大切さです。

私の挑戦の始まりは大好きな英語を使いたくて参加した韓国での研修でした。韓国英語村の寮で、韓国人の友達や多国籍の先生方と英語を使って話ができることに感激しました。そこからイギリス英語研修、アメリカ・姉妹都市交流、オーストラリアでの研修、そして、韓国春川女子高校での交流に参加しました。

韓国では日ごろメディアで報じられているようなことを全く感じさせない、素晴らしいおもてなしで出迎えてくれました。姉妹校の生徒とお互いの国について伝え合うことができ、自分の価値観も大きく変わっていきました。また、私たちの世代が協力しあって、両国関係を良くしていきたいと強く思いました。

海外に行く以外にも、学園には国際交流の機会が多く与えられています。アメリカ、オーストラリア、中国、ノルウェー、ブラジル、イタリア、トルコ、インドネシア、と様々な国の生徒と交流することができ、今でも連絡を取り合っています。このように学園に入り、英語への興味から始まり色々なことに挑戦させていただき、私自身大きく成長することができました。

お届け

金光様、日々ご祈念いただき有難うございます。

私たち金光学園中学・高等学校は、今年創立122年を迎えさせていただきました。

在校生一同、本日の創立記念日を心からお祝いさせて頂くとともに、学園生全員がこれからの金光学園発展に向けて、より一層努力していきますよう決意を新たにしたいと思います。

特に高校3年生におきましては、受験を間近に控え、追い込みの時期に入っておりますが、全学年の生徒一人ひとりが、それぞれの目標に向かって全力で取り組んでいくことができますよう、お取次ぎをお願いいたしますとともに、今後ともお祈り添えをくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

有難うございました。

生徒代表　岡野　敢太
山本　幸歩

学園での挑戦の集大成が今年の3月にアメリカ東海岸であったリーダーシップ研修への参加です。きっかけは、教室でこのプログラムのチラシを見つけたことでした。全国10人という狭き門に戸惑いましたが、挑戦することにしました。先生や両親そして友達のサポートのおかげで、何とか参加することができました。プログラム中、アメリカの高校で実際に授業を受けたり、ワシントンD．C．とニューヨークで各界のリーダーの話を聞くことができました。自分から主体的に動き、質問等投げかけることで、より経験が深まりました。お話を伺ったリーダーの皆さんは、周りの人と協力して、偉大な方になられていました。やはり、学園の合言葉〝人をたいせつに　自分をたいせつに　物をたいせつに〟を実践することが万国共通で大切なことだと感じました。リーダーシップ研修では日米協会のトップの方や国連で働かれている方、世界に名の知られたロックフェラー家の方にお話を聞きに行きました。他にもいろいろな場面で発表もしました。その際も、学園の制服を着て参加し、そのことを大変嬉しく思うと同時に誇りに思いました。私はいつもある言葉を胸に置いています。それはJAXAのはやぶさプロジェクトの川口淳一郎さんの言葉「高い塔をたてなければ、新たな水平線は見えてこない」です。私も挑戦して失敗したことは何度もあります。参加したかったプログラム全てに参加できたわけでは決してありません。応募しても採用にならなかったこともたくさんありました。それでも、そのせいで失ったものは何一つありません。応募用紙を書くことは自分を見つめ直すよい機会となりました。逆に、「よしまた次頑張ろう」という意欲がわいてきました。今までの経験から、一歩を踏み出すことで、想像もできないような素晴らしい景色が見えてくることを知っていました。このような経験を積んでこられたのも学園にいたからだと思います。

いつも支えてくださる先生方や後輩の皆さんと6年間学園で学べたことに感謝し、それを糧に、残りの学園生活も精一杯過ごし、将来は日本人として世界に貢献できる人材になることを誓います。最後になりましたが、金光学園のさらなる発展を願い所願表明とさせていただきます。

道 (16)

金光　道晴

「同窓会」

私は立場上、学園の卒業生の様々な同窓会に出席させていただく機会があります。多い年には1年間で20回近くになるかもしれません。ほとんどが日曜日やお盆やお正月に開催されますので、正直時間的には厳しい時もありますが、その度に元気をいただき、良き出会いをさせていただいています。この八月から十一月までの四ヶ月だけでも、七回の同窓会に出席させていただきました。そしてその度に卒業生の皆さんから、激励や応援の言葉をいただき、旧交を温め新たな出会いができ、懐かしいほのぼのとしたしたひと時を過ごさせていただいています。もちろん、厳しく叱咤激励されることもありますが、その都度卒業生の皆さんの、母校の頑張りや発展を強く願っておられる気持ちが伝わってきて、頑張らなければならないという元気をいただくのであります。

今回はそんな同窓会の中で、11月に出席した3つの同窓会について印象的であったことについて、書かせていただこうと思います。

何と言っても最も印象的だった同窓会は、11月20日に開催された私自身の期の同窓会であります。私の卒業期は、高校23回卒業なのですが、122年の歴史を持つ金光学園の卒業回の数え方は、旧制中学時代（50回）と戦後の新制高校時代では卒業期を分けて数えます。例えば、現高校3年生は高校69回卒業生になりますので、戦後の新制高校になってからの69回目の卒業生ということであります。さて私たちの第23回卒業生の同窓会は、卒業45周年ということで開催されたのですが、45年ぶりに再会した同級生もいて、良きおじさん・おばさん達も一気に半世紀前の中学・高校生時代にタイムスリップして、昔話に話が咲き、時を忘れて楽しいひと時を過ごすことができました。これまで私達の期は、5年に一度同窓会を開催してきましたが、前回は還暦同窓会と称して、イレギュラーに開催したので、今回は3年ぶりの同期会となりました。この3年の間でも数人の同級生が他界し、既に20人もの同級生が病気や事故で亡くなっていますので、会の初めには物故者に黙祷を捧げましたが、次回まで5年も待てないという声も聞こえてきたようなことでありました。乾杯の後、半世紀前の学生服やセーラー服姿の当時の入学式や、体育会・文化祭、卒業式などの映像が次々に紹介され、昔を思い出しながら全員が食い入るように見ていました。会は2時間では短いだろうということで、3時間の予定でスタートしたのですが、1人ずつ近況の報告をすることになり、始めたスピーチも、1時間たっても、わずか20人ぐらいの話しか聞けず、結局全員の話は聞けませんでした。当然70人近くの参加者がお互いに話をし、旧交を温め合うほどの時間はなく、一次会は終わりの時間を迎えてしまいました。続いて行われた二次会や三次会でも、話し足りないといった感じで、昼の12時半から始まったのですが、帰路についたのは夜9時を過ぎていました。ところで、三次会でT君が、当時流行していた「高校3年生」という歌を歌い始めたのですが、なぜか全員が1番から3番まで歌詞をしっかり覚えていて、一緒に歌えるのであります。その歌には「♪・・・ぼくら離れ離れになろうとも・・クラス仲間はいつまでも♪」「♪泣いた日もある悔やんだことも思い出すだろ懐かしく・・・♪」「残り少ない日数を胸に夢が羽ばたく遠い空・・・♪」などといった歌詞があるのですが、この歌を聞いていると、卒業前にセンチメンタルな気持ちになった昔のことを思い出し、今の高校3年生もそんな気持ちで、残り少ない学園生活を過ごしているのかなあと思ったようなことでありました。その日は、心が中学生・高校生時代に戻り、懐かしい時間を過ごすことができました。次回の5年後に元気で再会できることを誓い合って別れましたが、今でもその余韻が残っているような気がしています。

次に11月6日に行われた高校第15回の卒業生の同窓会に出席してのことを書かせていただきます。遠くは北海道や千葉や京都などから参加された方もおられ、終始和やかな雰囲気の中での同窓会でしたが、やはり会に先立ち、物故者の冥福を祈って黙祷が捧げられました。15回卒業と言えば、私より8歳上の先輩にあたりますので、物故者も40名おられるとのことでした。その発起人の一人であられた、Hさんはその日を待たずに、病気で帰らぬ人になってしまわれました。私もよく存じ上げていた方だったので、残念な思いを持って出席したのでありますが、同じ発起人の方がその方のことを偲びながら挨拶されるのを聞いて涙が流れてきました。しかし、きっとHさんも御霊様として、その同期会にも出席されていたと思いましたし、会の盛会を心から喜んでいられるだろうと思わせていただいたようなことあります。一言で同窓会と言っても、それぞれの方の思いの詰まったものであると、改めて感じました。

11月26日にはお医者さんの同窓会である「ほつま医会」が開催されましたが、この同窓会の出席者の最長老は88歳の現役のお医者さんから、今年医学部に入学した学生まで幅広い年代層が出席されていました。毎年この会では、初めに約30分程度の卒業生の医師による医学講演会があり、今回は眼科の先生による講演が行われました。いつも熱心な質疑応答も行われていますが、懇親を深めるだけでなく、医師としての研修の場にもなっています。このような同窓会を始め、東京や大阪でも毎年開催されていますし、様々な同窓会に出席させていただき、元気をもらっているようなことで、誠に有り難く嬉しいことであります。現在の中学生や高校生も立派な卒業生になって、将来そのような同窓会を開き参加できるようになればと思っているところであります。

金光学園　高23回生　卒業45年記念同窓会

活躍する卒業生

表裏の歴史学

丸山　裕美子（高32回）

昨年（２０１５）10月から朝日新聞の土曜版beで、「表裏の歴史学」というコラムを連載しています。正倉院文書という奈良時代の史料を使って、古代の制度や人びとの暮らしをつづるエッセイ風の記事です。山室恭子さんの「商魂の歴史学」（近世史）、呉座勇一さんの「交流の歴史学」（中世史）、佐多芳彦さんの「服装の歴史学」（風俗史）と週替わりで担当しているので、だいたい４週に１回掲載されています（２０１７年３月までの予定）。

このコラムのコンセプトは、「歴史をひもとき、いまを生きる読者に先人の知恵を伝える」というものです。読者に専門的な知識がなくてもわかるように平易に、現代社会にひきつけて書くことを心掛けています。

私は以前、１９９９年４月から９月まで毎週、ＮＨＫラジオ第２放送で「文化セミナー　歴史に学ぶ」を担当し（全25回）、その内容を『正倉院文書の世界　よみがえる天平の時代』（中公新書、２０１０年）に増補して出版しました。この拙著を読んだ朝日新聞の方から、同じ内容をかみくだいて書けばいいので、と依頼されたのです。

コラムのタイトルは、必ず「○○の歴史学」としなくてはならず（○○は２文字）、最初はどうしようかとずいぶん迷いました。内容は正倉院文書なのだから「正倉院文書の歴史学」というのがもっともふさわしいのですが、「正倉院文書」では５文字になってしまうのでボツ。時代を表す「天平の歴史学」ではどうかと考えましたが、年号はダメ、つまらないということでボツ。苦肉の策で、正倉院文書の性格を示す「表裏」と「反古」の２つを提案し、「表裏」が採用されました。

「表裏」というのは、歴史の表と裏、正史に描かれる国家の表の歴史と、その裏にある庶民の暮らしなどの歴史、という意味を含ませているのですが、実は文字通り「正倉院文書の表裏」の意味で名づけました。正倉院文書は、奈良・東大寺の境内にある正倉院宝庫に残された８世紀の文書群です。１万点以上の古代の史料が、タイムカプセルのように宝庫のなかに閉じ込められて、まったく偶然に現在に伝えられました。

古代には紙はとても貴重でした。ですから、表が使用された後に、裏がリサイクルで使用され、その後はさらに物を包んだり、詰め物にしたりとリユースされました。正倉院文書には、702年の戸籍などの公文書も含まれますが、これは、戸籍は30年間保存した後は廃棄することになっており、その廃棄され反古になった戸籍の裏に新たに事務帳簿などがつけられたからなのです。正倉院文書として残った事務帳簿は、奈良時代に仏教の経典を書写するプロジェクト事業を行っていた東大寺の写経所の労務管理のための書類が中心です。

正倉院文書の表からは、古代国家の制度や支配の実態がわかり、裏からは奈良時代に生きた人びとの労働と生活の様子がわかります。古代の戸籍制度が、マイナンバー制度によく似ているとか、ブラック企業のような側面もあった写経所の労務状況、朝鮮半島からの移民に多くを頼っていた職場環境、夫婦別姓であったこと、高額の薬を輸入していたこと、月利15％の社内ローンに苦しんでいたこと、なかなか厳しい勤務評定であったこと、「酒」を「薬」と称して購入していたこと、七夕の詩を一生懸命練習したり、季節の果物を楽しんだり、賄賂を贈ったり、病気になったり、介護をしたり、意外に充実していた福祉の制度もあり、等々、正倉院文書を読み解くと、さまざまな古代国家、社会の姿が多面的にわかります。

私がこうした正倉院文書の面白さに目覚めたのは、お茶の水女子大学の３年生のときでした。正倉院文書を活字翻刻した史料集である『大日本古文書』編年文書25冊が再版され、それを先輩からのアドバイスで、バイト代をはたいて購入しました。１冊が600頁を超える大部の史料集ですが、これを１冊ずつ順番に読んでいきました。最初はなかなか漢字が読めないし（異体字が多い）、難しいばかりでしたが、だんだん意味がわかってくると、その魅力に夢中になってしまいました。

先にふれましたように、正倉院文書は偶然残った文書です。残そうと思って伝えられたものではない、反古の紙です。ですが、それはつまり書かれた奈良時代の生の史料であるということです。誰かの意図や目的があって編集されたものではない、古代の人びとの息遣いが聞こえる史料なのです。

例えば、古代の写経所はかなり厳しい職場でしたが、彼らが残した待遇改善要求の草案が残っています。ちょうど今年の正倉院展に出陳されていましたが、６カ条の要求を掲げています。作業着の交換、月に５日の休暇、食事の改善、薬としての酒の支給など、要求は具体的で切実です。草案は推敲のあとが顕著で、何度も書き直したり、表現を工夫したりしています。この草案が清書されて実際に提出されたかどうかはわかりませんが、こうした待遇改善要求を書くことができたということは重要です。現代に生きるわたしたちと変わらない「人間」の姿が、古代の文書の中に生きていることを感じることができると思います。

現在、私は愛知県立大学という地方の公立大学で、古代史を中心に歴史を教えています。少子化と経済のグローバル化が進展するなか、公立大学に限らず、人文系の大学、学部はその存在意義を問われる厳しい状況に直面しています。人文社会科学系学部や教員養成学部の廃止や改編が提言され、実際に多くの国立大学で学部の改組が行われています。文科省は否定していますが、効率化やすぐに役立つ実学を重視する傾向にあることは否めません。

「歴史に学ぶ」とはよく言われることですが―そして表題のコラムもそれを求められているのですが―、古代史の研究・教育は直接には現代社会の諸問題に結びつかないように思えます。けれども、日本古代の歴史の中にも、普遍的な人間の営みがあり、それを知ることは、未来の可能性に通じるメッセージになるのではないかと考えています。

やつなみ保護者会のページ

ほつま祭模擬店実行委員を通して感じたこと

高３　保護者

学園にお世話になって６年目になりますが、未だに入ったことの無い部屋も沢山。一番奥にある木造の建物Ａ校舎に足を踏み入れる機会なんて、高３模擬店実行委員というお役をいただいたからこそ。コツの要るカギを四苦八苦して開け、あの歴史を感じる建物に入るのはちょっとした冒険気分。そして初めて目にする校舎に残されている数々の備品に、代々の役員さんや生徒さんの想いがずっしりと感じられて、卒業生でもないのに甘酸っぱい思い出がよみがえってくるようで、タイムスリップしたような不思議な気分になってしまいました。

ここＡ校舎から始まった模擬店の準備は、何もかもが初めて過ぎて、きっちり残してくださっている資料を見ても不安だらけの中、ベテランの保護者の方々に教えていただきながら、また快く有志としてお手伝いを引き受けてくださった高３保護者の方々に助けていただきながら、何とかやり通すことが出来ました。本当に皆さんご協力ありがとうございました。そして普段見ることのできない子どもたちの様子を、こんなにも近くで見ることが出来て、話も出来て、本当に楽しく貴重な時間でした。

毎年のことでありながら、毎年メンバーも代わり状況も変わるほつま祭で、本役の方を中心に、それぞれの担当の方が本当に熱心に、そして楽しそうに関わっておられる様子は、３人の子どもを通して今まで関わってきた学校の中で、金光学園が群を抜いていると常々感じてはいましたが、先生方も本当に協力的で、また保護者の顔もよく覚えていてくださっていて、感激することが多々ありました。生徒、教員、保護者のそれぞれがどこかに任せきりではなく、協力し合うことでより一層の力が発揮されるわけですから、学園はそのバランスがとてもよく取れているからこそ、皆が活動しやすいのだと今回深く関わらせていただいて、改めて感じた次第です。

巣立っていく子ども。私に残されたのはたくさんの思い出と学園で知り合い、共に過ごした保護者の方々です。これほど有り難いことはありません。これからも永いお付き合いを皆さんよろしくお願いしますね‼

「雨の中学体育会」

中３　保護者

今年の中学体育会は、まさかの雨でした。

私自身も保護者枠でむかで競争に出る予定だったので、グラウンドの状態が非常に気になっていたのですが、行くとやはり、大きな水溜まりがあちこちにありました。

それでも子ども達の、なんとたくましいこと！

雨なんてへっちゃら！水溜まりもなんのその！

グラウンドや天候に合わせ幾つかプログラム変更もありましたが、子ども達は皆、全力で競技に挑んでいました。

そしてやはり金光の中学体育会といえば、応援合戦です。巨大マスコットを初めて観た時は本当に驚きました。中３の我が子は３年続けてマスコットを担当していましたが、今年は最高学年としてチームをまとめ、限られた期間で巨大マスコットを作り上げることで特別な達成感を得たようです。

悪天候でも、負けそうになっても、力を出し切ろうとする姿に元気をもらえた１日でした。

そして子ども達を見守り、成長を支えてくださっている先生方、いつも本当にありがとうございます。

青春真っただ中‼ 高校体育会

高２　保護者

雨でゆるんだ　グランド

そんなの問題ない！と体育会を楽しみ、意気揚々としている子供達の姿がまぶしいほどに、そして、うらやましいほど輝いていました。

☆長縄跳び　きっとそれぞれの役割があったのでしょう。足を高くあげて跳ぶ先頭！　縄を回す後ろ姿は力強さを感じ、１・２・３・・・の数が絆を増やしてくれるようでした。

☆綱引き　泥まみれになりながら、体に綱をまきつけて踏ん張る女子生徒。大きなかけ声と共に綱が左右に揺れ、こちらも応援に力が入りました。

☆部活動リレー　先輩・後輩とバトンをつなぎ全力疾走‼「足、はやい～！がんばって～！」の黄色い声に思わず「ありがとう♥」と言ってしまった。

☆大玉運び　前へ前へと玉を送り、コーンを回る時に一緒に玉と転がってしまった場面では、テントの中で笑いが起きました。

友達と歯をむき出しにして笑う子供達の姿！

若さあふれる　躍動感！　生命力！

時代を反映する　応援歌！

体育会運営係の頑張り！

子供達を見守り、一喜一憂してくださる先生方！

グランドで同じ時を過ごせる幸せをかみしめながら、体育会を楽しみました。

沢山の経験をさせてもらいながら確実に自立していく我が子。

普段、家では見ることの出来ない成長した姿を見る機会と感動と笑顔を共感出来る環境を与えてくださることに感謝の気持ちでいっぱいです。

これからも仲間と共にキラッキラ☆の青春を謳歌してほしいと思います。

青春　　バンザイ‼

10月28日（金）

やつなみ保護者会研修旅行

教養部
井上　愛子

10月28日（金）にやつなみ保護者会役員と友愛セール・模擬店にご協力いただいた皆さんと研修旅行に行って参りました。教養部でどこが良いか案を出し合い、兵庫県の三田方面と決めたものです。

当日は43名の皆さんがご出席くださり、朝から雨が降りそうなお天気でしたが、外を歩くときには大した雨が降ることもないとても過ごしやすい気候でした。

初めに兵庫県立フラワーセンターへ。広大な面積のフラワーセンター。温室の中には蘭や多肉植物などたくさんのきれいな植物が植えられており、楽しむことができました。昼食は三田屋さんへ。きれいに整備されたお庭には能舞台が！美味しいステーキをいただきながら今までお話ししたことがない方々と子どものことや家庭のことなど色々なことを話すことができた楽しいひとときでした。そして、メインの神戸三田プレミアムアウトレットへ。2時間ほどの時間でしたがそれぞれ思い思いの品物を手に入れられバスへ集合したときには皆さん満足そうなお顔をされておられました。

バスの道中では毎年恒例の添乗員 佐藤さんの楽しいウィットに富んだお話に初めて参加した私は所々鵜呑みにしてしまいそうになりながら、みんなで楽しむ雰囲気を作ってくださりありがたいことでした。女性がほとんどの中で行きは副会長、帰りは会長が、お話してくださいました。

私はこのような会に参加させていただくのは初めてでしたが、楽しみながら保護者同士の親睦を深める良い機会となりました。段取りをしてくださった佐藤副校長先生にも大変お世話になりました。

会　報

やつなみ保護者会地区会　7月を中心に26の全ての地区で地区会が開催された。平均出席率は47・8パーセントであった。（昨年48・6パーセント）また、止宿の保護者の方にはアンケートでご意見をいただいた。地区会でいただいたご意見は、冊子にまとめて、全役員会で配布され、学校では今後の指導に活かされる。

オープンスクール手伝い　7月24日のオープンスクールでは、三役と各部長他、13名の役員がお手伝いをし、参加した1280名の小学生・中学生・保護者に冷たいお茶やミネラルウォーターを配布し、喜ばれた。

第3回評議員会　8月30日開催 会長挨拶の後、各部別協議と各部より報告。研修・出張の報告等がされた。

第2回全役員会　8月30日評議員会の後引き続き開催された。会長・校長の挨拶、学校近況報告の後、協議報告事項に移った。指導部からは、地区会の報告、街頭・列車補導について、庶務部からは、友愛セール、大祭湯茶接待について、教養部からは、研修旅行と教養シリーズ発刊について、それぞれ報告と協議がなされた。また、友愛セールについての打ち合わせを行った。

友愛セール　9月10日には準備、11日にはほつま祭での友愛セールを、全役員が一丸となって取り組んだ。近年遊休品の収集が難しく、一学期から夏休みをかけて、手作り会を開催し、手作り作品を多く販売した。企業協賛には60社のご協力があった。また、高3保護者有志による模擬店も好評であった。

金光教大祭湯茶接待　10月2・6・10日の3日間に行われた、生神金光大神大祭に延べ33名の役員が奉仕した。また、12月11日に行われた、布教功労者報徳祭に10名の役員が奉仕した。いずれも全国の参拝者の方々に湯茶の接待をして大変感謝された。

やつなみ保護者会研修旅行　10月28日

役員、ほつま祭の友愛セール・模擬店お手伝い方を含め43名が参加した。兵庫県立フラワーセンター見学の後、三田方面に行き、食事や買い物を楽しんだ。見学地、バスの中、昼食中と終始和やかに親睦を深めた。（やつなみ保護者会のページ参照）

第四回評議員会　12月1日開催　2学期の主な行事（友愛セール・大祭湯茶接待・研修旅行・研修会・補導活動等）の報告及び反省が行われた。

諸会合

○8月25・26日　全国高P連千葉大会
平松会長、難波・横藤田副会長の3名参加。

○9月10日　私学振興大会　平松会長参加。

○10月29日　第2回浅口里庄母親委員会
大本副会長・遠藤監事出席。

○11月8日　県高P連指導者研修会　加賀副会長、遠藤監事出席。

○11月30日　備西地区高P連秋季総会
平松会長・金光校長出席

「2016年 友愛セール」ご協力の御礼

さる9月10、11日の両日に亘り平成28年度ほつま祭が天候にも恵まれ、盛大に開催されました。友愛セールに際しましては、保護者の皆様方より多大なるご支援、ご協力を賜りましたことを心より感謝申し上げます。

本年度のほつま祭のテーマは「咲（えみ）～笑顔を咲かせよう」でした。そのテーマの通り、当日学園には至る所でたくさんの笑顔が咲いていました。子ども達の趣向を凝らした展示会場で、多くの人気を集めた模擬店ブースで、毎日の練習の成果を出し切った舞台上で。そして友愛セールの会場でも多くの笑顔が咲きました。これもひとえに保護者の皆様方の数ヶ月前からの度重なる諸会合へのご参加、前日からの準備及び当日の各コーナーのお手伝い等、労を惜しまないご奉仕をいただいた結果と、重ねてお礼申し上げます。

中学高校一貫で行われる金光学園のほつま祭は、近隣のどの学校とも比較にならないほど大きな規模のものです。よって友愛セールも類を見ない大がかりなものとなっています。皆様のご協力で様々な品が並ぶ中、手作り作品は毎年開始前より行列の出来る大人気コーナーとなっております。これらの作品は、一番早くは6月の初旬よりお集まりいただき一つ一つ心を込めて製作されたもので、私も何度かその場へお邪魔しましたが、その技術・手際にただただ感心するばかりでした。

私達の住む現代社会は、様々な店舗が次々と出来、ネット等の発達もあり、驚くほど早く安く商品を買うことのできる環境にあります。だからこそ保護者の皆様が、お忙しい中時間を割き学校に集合し、一つ一つ手間をかけて作品を作り上げ、会場設営から販売までこなすその姿は、子ども達に素晴らしいギフトをもたらしてくれたことと信じています。

122年の伝統を引き継ぎ開催されるほつま祭ですが、毎年少しずつ変化、そして進化しております。反省すべき点や改善すべき点は積極的に取り入れて参りたいと思っておりますので、お気づきの点がございましたら、ご意見等どしどしお寄せ下さい。

金光学園のより一層の充実のため、今後とも温かいご協力の程、よろしくお願いいたします。

金光学園やつなみ保護者会
会長　平松　晃弘

ある日のホームルーム

高校1年4組

ほつま祭に関連したホームルームです。1年4組は「国境を越えてLive Love Laugh～世界は一つ～」をテーマに異文化理解の取り組みをクラスで進めてきました。この日のホームルームでは「レヌカの学び」という多文化共生と人間尊重を考えるカードゲームを行いました。自国と他国に目を向けること、また、自分の中の異文化に出会うことを目的に、今回の機会を設けました。

「レヌカ」とはネパール人の女性の名前です。ネパール公立ろう学校の校長先生です。彼女は日本の教育を学ぶために来日し、日本で暮らすうちに、ネパールにいるときとは別人のように変わっていきました。人は環境によって、行動や考え方を変えながら適応して生き続けているのであり、そのことを個人ベースで理解し合うことが異文化理解の第一歩になるのではないかと考えています。「異質なことが作用し合って、融合され、新しい考え方が生まれる」ことを尊重し合うことの楽しさを、より多くの人たちと一緒に考えていきたいという願いからこの教材ができました。

まず、2枚のカードが担任の先生から提示されます。一方はネパールのことについて、もう一方は日本のことについて書いてあります。例えば、「学校では違う年齢の子どもがいっしょに勉強する」、「学校では同年齢の子どもがいっしょに勉強する」といったカードです。それを班の中でどちらの国について述べているものなのかを判断するために、意見を出し合います。自分の考えとその理由を発表します。

中には「子どもたちはよく遅刻をする」、「子どもたちはめったに遅刻をしない」というように、日本とネパールの判断がつきにくいものもあり、意見が分かれることもあります。そのような時に、個々の考え方の違いが見えてきて、同じ日本人であっても「自分と他人の異文化」に出会うことができます。

インドネシアからの留学生ナディアさんもこのゲームに加わり、クラスの中で共に過ごしている仲間と、個性を見つめ直して尊重していく良い体験となりました。

ゲームを行った生徒は、それぞれの項目について積極的に意見交換をし、それまでの自分の思い込みや偏見にも気づき、世界に目を向ける異文化理解の第一歩となりました。

探究 授業報告

探究（中3）

○原子力発電プレゼンテーション

2学期の「原子力発電プレゼンテーション」へ向けて、夏休みの課題ではメモリーツリーで原子力発電の今後についての大まかな流れをつかみ、準備を進めてきました。10月17日にはプレゼンの効果的な方法を川崎医療福祉大学の荒谷眞由美先生より学び、自分たちの発表の糧としました。11月よりクラスで2グループに分かれて、パワーポイントで作成したスライドでプレゼンテーションをし、お互いに評価し合い、クラスの代表を選出しました。

探究Ⅰ（高1）

○ゼミ活動

9月から文系4ゼミ（教育、日本語・日本文学、現代社会、ビヨンド・ザ・カルチャー）、理系5ゼミ（数学、物理、化学、生物、天文）に分かれて、今後自分達が行う研究テーマを探しました。10月の中間考査が終わった時期から本格的にゼミ活動がスタートし、研究が開始されました。

探究Ⅱ（高2）

○ゼミ活動

2学期前半は文系5ゼミ（教育制度、グローバル経済、岡山再発見、NIPPON QUEST、Anime & Cartoons）、理系7ゼミ（数学、情報、天文、物理、化学、生物、スポーツ科学）での個人またはグループ活動で研究を進めました。また、県内外のコンテストにも出場し、研究の成果を発表すると同時に、プレゼンテーション力を養うことができました。2学期後半からは論文原稿の作成に取りかかりました。

○文系ゼミ国際化中間発表会

9月30日に京都アメリカ大学コンソーシアムの留学生が来校し、文系ゼミは自分たちの進めてきた研究を英語で発表し、意見交換を行いました。準備期間が短かったため、コミュニケーションスキルに課題も見えましたが、留学生と交流できたことで、英語の学習意欲がさらに高まった生徒も多くいました。

受賞等

○各種コンクール、コンテスト等への参加

7月18日に大阪教育大学で開催された「高校生天文活動発表会・天文高校生集まれ！」に天文ゼミが参加しました。

7月29日に岡山大学で開催された「高校生・大学院生による研究紹介と交流の会」に物理ゼミ、化学ゼミ、生物ゼミ、天文ゼミ、スポーツ科学ゼミが参加しました。

7月31日に岡山大学で開催された「応用物理・物理系学会中四国支部合同学術講演会におけるジュニアセッション」に物理ゼミが参加しました。

8月9～11日に神戸国際展示場で開催された「SSH生徒課題研究発表会」に学校代表として生物ゼミの遠藤稚子さんが「ミドリゾウリムシの環境要因による細胞分裂の速度の変化」の研究で出場しました。

10月10日に岡山大学で開催された「第49回日本原生生物学会」に生物ゼミが参加しました。

11月5日に大阪市立大学で開催された「第13回高校化学グランドコンテスト」に化学ゼミが参加しました。

11月6日に香川大学で開催された「日本化学会中国・四国支部香川大会」に化学ゼミが参加しました。

11月6日に就実大学で開催された「第55回日本薬学会・中国四国支部学術大会・高校生オープン学会」にスポーツ科学ゼミが参加し、「運動前の水分摂取が体温，体重および心拍数に及ぼす影響の研究」（小野香奈子さん、西川華さん、山本真由さん）が優秀発表賞を受賞しました。

いていたからこそと思います。今は、お世話になったすべての方に感謝の気持ちでいっぱいです」と語る横山先生のますますのご活躍をお祈りしています。本当におめでとうございます。

横山俊則先生 私学教育功労者表彰を受賞

横山俊則先生が、9月10日岡山シンフォニーホールにて、平成28年度岡山県私学教育功労者表彰を受賞されました。

「思い返してみると、数学、部活、クラス運営など周りの方の迷惑も考えず自分が思うようにさせていただいた教員生活でしたので、思いもよらない突然の受賞で驚いています。このような教員生活ができたのも生徒、教員、保護者の皆様の支えをいただき

垣内寿生先生 私学協会功労者表彰を受賞

垣内寿生先生が、9月10日岡山シンフォニーホールにて、平成28年度岡山県私学協会功労者表彰を受賞されました。

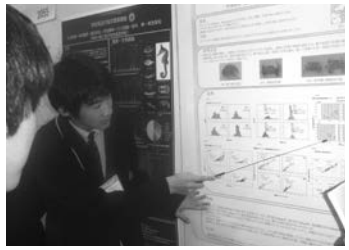
「教祖様は『ものは細うても永う続かねば繁昌でないぞ』と御教えになっておられます。私のような者でも、今日まで教員生活を続けてこられたことに感謝致したいと思います。また今回身に余る賞を受賞させて頂き、まことに有難うございました」と語る垣内先生のますますのご活躍をお祈りしています。本当におめでとうございます。

生物ゼミ 日本水産学会春季大会「高校生による研究発表」奨励賞受賞

3月28日に行われた平成28年度公益社団法人日本水産学会春季大会での「高校生による研究発表」で、高3（受賞時は高2）小林俊介くん・小川太士くん・千神拓海くん・廣井 馨くんの研究「ヒライソガニの鋏脚」が奨励賞を受賞しました。

この年は特に参加校が多く、43校が参加した中での受賞となりました。

「ヒライソガニの育成や、計測に苦労した結



果、このような素晴らしい賞を頂けてよかったです。この研究を通し、皆にカニの面白さを伝えたいです」と受賞の喜びを語る4人の今後の活躍に期待しています。

浅口支部児童・生徒科学研究発表会 最優秀賞 受賞

中学3年の内村彩乃さんが、夏休みの自由研究「家庭にあるものを使ってできる実験②～液状化現象と再現～」を科学研究発表会に出品し、最優秀賞を受賞しました。

「熊本地震があり、地震について少しでも詳しくなりたいと思ってこの研究を進めました。正直、最優秀賞を受賞できるとは夢にも思っていませんでした。本当にありがとうございます」と語る内村さんの今後の活躍に期待しています。

また、11月27日に岡山理科大学で行われる研究発表会では追加実験を一緒に行った中1山田優衣さんも、発表しました。山田さんは「実験は難しい所もあったけど、しっかりできたのでよかったです。発表も頑張れました」と語ってくれました。

高校生オープン学会 優秀発表賞 受賞

11月6日に行われた第55回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会 中国四国支部学術大会 高校生オープン学会にて、高2スポーツ科学ゼミの小野香奈子さん・西川華さん・山本真由さんの研究「運動前の水分摂取が体温、体重および心拍数に及ぼす影響の研究」が優秀発表賞を受賞しました。

その喜びを山本さんは次のように語っています。

「発表は緊張しましたが、頑張りました。研究途中は、上手く結果が出ずに何度もやり直すなど悩んだこともありました。しかし、今回の発表を通して改善点も見えてきたので、これからの研究に活かしていきたいです」

今後の活躍を期待しています。

第9回浅口市長杯中学生英語スピーチコンテストにて2位受賞

11月10日に浅口市金光公民館で行われた第9回浅口市長杯中学生英語スピーチコンテストに出場した中3大原綾華さんが暗唱の部で2位を、中3内村彩乃さんが創作の部で2位を受賞しました。

暗唱の部2位題名
Education First: Malala's Story

創作の部2位題名
Why Can't Japanese People Speak English Fluently?

感謝状贈呈

花田写真場様には、3代に亘って数々の行事に参加していただき記録写真の撮影や卒業アルバムの作成などをしていただきました。また、西江文具店様には40年間にも亘って学園の購買として携わっていただきました。それぞれ学園教育の一端を担っていただいた足跡に感謝の意を表して、創立122年記念式に花田英彦氏と永井美与子氏に学校から感謝状を贈呈させていただきました。長い間本当にありがとうございました。ここで、お引きになるということで一筆お願いいたしました。今後のご健勝と益々のご活躍をお祈り申し上げます。

長い間、本当にありがとうございました

花田写真場　花田　英彦

花田写真場が開業して103年程になりますが、私的事情により今年の4月をもちまして、やむなく出張撮影の業務を終わらせていただくことになりました。

祖父、父、私と3代に亘り金光学園でも仕事をさせていただき、又、父、妻、娘3人も学園でお世話になりました。思えば100年近く学園とは深い繋りがありました。

私自身も学園では48年間仕事をさせていただきました。その間、中学、高校の入学式、卒業式、ほつま祭、体育会や記念式などの各行事。生徒さんの個人写真、中・高の卒業アルバム、中2の蒜山、大山、大佐山でのキャンプ、中3の四国、沖縄、高2の九州、信州、北海道の修学旅行など数多くのことが思い出されます。

いつも学園では、校長先生をはじめ、どの先生方も親近感をもって親切に接していただき、気持ちよく仕事をさせていただいたことは大変ありがたく、心より深く感謝いたしております。

度々学園へ出向きましたが、先生方との何気無い雑談や、生徒さんから「花田さーん」などと笑顔で声をかけられたりした時などは仕事を越えた親しみを感じておりました。

長年私は撮影時にはいつも「正確に、確実に、美的感覚をもって」ということを念頭に入れてきましたが、おかげでどうにか大過なく業務を終えることが出来ました。私も年齢を重ね、体力、気力の衰えを感じはじめた頃で、学園に御迷惑がかからない内に仕事を止めさせていただくことが出来、安堵の気持と、しみじみとした寂しさとが心中に同居しております。この上は私自身趣味の写真の方で頑張って行こうと思っています。

長い間、本当にありがとうございました。金光学園の今後一層の御発展を心よりお祈りしております。

ありがとうございました

西江文具店　永井　美与子

8月末をもちまして、40年間の購買の営業を、終了させていただきました。

前々から考えていましたが、7月末に購買をして下さる業者と出会い、急遽、廃業を8月末にしました。

突然のことで、また夏休み明けでもありましたので、先生、生徒、父兄の皆様には、ご迷惑をおかけしました。

昭和24年、金光学園が占見野に移転した2年後、正門の真西に、西江文具店を母が開店しました。その後、学園経営の購買が、出来ましたが、昭和51年9月より、当時の佐藤一徳校長からのご依頼を受け、母がさせていただくことになりました。

私も、最初から手伝っておりましたが、結婚後、専業主婦を14年したのち、母の高齢と長男が金光学園に入学したため、金光に転居し、18年前から再び携わるようになりました。

この18年間の思い出は、いろいろありますが、特に印象に残っているのは、新学期の混み合っている10分間休みの時でも、レジの前で、生徒が列を作って待っていてくれたことでした。本当に助かりました。

また、文具マニアの生徒から「おばちゃん、新製品でた？」と、尋ねられることもよくありました。私以上に詳しく教えてもらうこともあり、生徒のニーズをきくこともできて、仕入れの励みにもなりました。

そして、毎年のことですが、新学期には、購買が珍しい中1の生徒がよく来てくれました。また小学生気分が残っていて、無邪気にお喋りしていた男子が中2、中3になると急に無口になり、久しぶりに会うと、頼もしい高校生になっていて、嬉しく思ったこともありました。生徒たちの金光学園で過ごす6年間の成長は目覚しくて、人生にとって大事な時期だなと、しみじみ思いました。

金光教の熱心な信者であった祖父は「商売は人のお役に立てるように」と言っておりましたが、私自身振り返って、少しでもお役に立てただろうかと、反省しています。

最後に、購買をさせていただいたこと、亡くなった母に代わり、有難く感謝申し上げます。

金光学園の皆様の益々のご発展をお祈りして、長い間のご愛顧の御礼申し上げます。

表紙の言葉

中1　三宅　雄大

「しずかなる　力満ちゆき　ばったとぶ」

この俳句を初めに読んだ時に、たしかにそうだなと思いました。草むらを歩けば飛びはねるばった。小さなばったの足に静かに力がはいり飛び上がる姿を版画にしようと思いました。

彫る段階ではただばったを飛ばすだけでは力強さが伝わらないので、ばったが見ている人の方へ飛んで来るかのように彫りました。僕も小さな自然に目を向けてみようと思いました。

活躍おめでとう

《中学放送部》

全国予選出場

中3　黒川麻衣子

私は今回、第33回NHK杯全国中学校放送コンテストに参加しました。岡山県地区大会にアナウンス部門で入賞することができ、全国大会予選に出場することになりました。まさか自分が選ばれるとは思っておらず、さらに初めての大会参加だったので、とても嬉しかったです。

アナウンスの原稿テーマは「午睡」で、昼食後に昼寝をすることの効果について書きました。

残念ながらCD審査には受からず、決勝には行くことができませんでした。原稿の内容は評価されていましたが、滑舌や発音はまだまだだと講評用紙に書いてあり、練習不足だと思いました。

この経験と悔しさを心にとめ、次の大会では良い結果が得られるよう、努力したいです。最後に、部活動の仲間や顧問の先生方、応援してくれた友達、本当にありがとうございました。

《高校ラグビー部》

ラグビーで得たもの

高3　福島　拓紀

7月28日（木）～31日（日）に長野県で行われた全国高等学校合同ラグビーフットボール大会にU18中国選抜として高3福島拓紀君・原田雄矢君が参加した。

僕は高校2年の6月末からラグビー部に入部しました。やはりこの時期から入ると同級生との力の差は歴然です。負けず嫌いの僕は同級生にいち早く追いつきたいと考え、日々の練習以外にも動画で動きを研究したり、筋トレやランニングなどに励んだりしました。

その結果、高3では金光学園ラグビー部創部初となる7人制大会でベスト3に入ることができました。さらに、個人としては岡山県合同選抜を経て、中国地区合同選抜として全国大会に出場することができました。このような結果を残すことができたのは、自身の努力の成果であることはもちろんですが、家族、顧問の先生方、友達、そして何より一緒に練習した仲間のおかげだと思います。

こうしたことから、努力の大切さや諦めない気持ち、支えてくれる人々の大切さを学びました。これからも色々なことがあるでしょうが、ラグビーで得たことを生かして乗り越えて行こうと思います。

「知ること」と「環境」

高3　原田　雄矢

僕は7月末に行われた全国大会に中国地区代表として出場させていただきました。大舞台でプレーすることができたのは、父と母、顧問の先生方、そしてチームの皆など色々な人達の支えがあったからです。

この大会が行われる少し前に、大学のセレクションに参加させていただきました。そこでは全国優勝する学校や全国レベルの学校から15人ほどが参加していました。セレクションには落ちてしまったのですが、レベルの高い選手と一緒にプレーできたことは自分にとってとてもプラスになりました。この経験によって、日々の練習に対する姿勢や自分のラグビーへの考えがガラリと変わり、その結果、大会では良い成績を残すことができました。

僕が全国大会で思ったことは、スポーツをするには「環境」がとても大事だということです。しかし、それ以上に重要なのは全国レベルを「知ること」です。どんな形でもいいので、自分から行動し、高いレベルに触れることで、日々の行動も変わってきます。僕はこれから先、もっと上を目指してラグビーを続けていこうと思います。

《文芸部》

第18回高校生文芸道場中国ブロック大会（岡山大会）において、高3山口璃菜さんが優秀賞を受賞、同じく高3金田実沙紀さん・岸本桃さん・細川典子さんが入選となった。

スタート

高3　山口　璃菜

昨年に続き、中国大会で賞を頂けたことを大変嬉しく光栄に思います。とはいえ、最優秀賞を逃してしまった悔しさを、拭い去ることもできません。来年こそはきっと後輩たちがこの願いを叶えてくれると信じています。

中国大会で賞を受けた6人のうち、私を含めた4人もの書き手が金光学園の部に揃っているということが、とても稀有であり、素晴らしいことだと感じました。3年間を通して執筆に向き合ってきた仲間たちと、共にここまでたどり着くことができた。このことは、私の誇りであり、自信です。

けれど、私はここがゴールだとは思っていません。私はこれからも物語を書き続けます。大学生になっても、大人になっても、ずっと。そしていつか、作家になりたい。言葉と向き合うことで、自分の人生を歩んでいきたい。3年を経て、今ようやく自信と覚悟を持って、そのスタート地点に立つことができました。

文芸と出会って

高3　金田実沙紀

この度私は、文芸道場の散文部門で入選という賞をいただきました。多くの学校の高校生が参加する文芸道場で、仲間

と共にこのような賞を賜ったことを、とてもうれしく思っています。

さて、私が文芸部に入部したのは、高校2年生の5月のことです。同級生の仲間たちはみんな高校1年生の時に入部していましたから、スタートラインに立つのが1年も遅かったのです。正直なところ、応募してはみたものの本当に受賞できるとは思っていませんでした。こんな私でも入選に辿り着くことができたのは、文芸部での活動の濃さによるところが大きいと思います。

金光学園の文芸部は部員同士の結びつきが強いのが大きな特徴です。今回は、先輩、同輩、後輩、先生方から多くのアドバイスをいただき、切磋琢磨してきた結果が出たのだと思います。

高校生の間に文芸に出会えて、本当によかったです。これからの人生でも、また物語をつづりたいと思います。

賞をもらうことで得たもの

高3　岸本　桃

高校1年生の6月、人生で初めて書いた物語はとても拙く、未完成なものでした。あの時は自分が賞をいただくとは思いませんでした。

今回、中国文芸道場で入選をいただきました。この作品は3年間支えてくれた人たちがいなければ書くことができませんでした。3年間ともに書き続けた部活の仲間たち、指導していただいた先生方、3年間ありがとうございました。貴方たちがいたから正しい表現を学ぶことができ、物語を創るときに一人にならなかったと思います。

この3年間、何度も書くことが嫌になり、辞めてしまおうと思いました。そんな時に支えになったのは、作品を読んでくれた人の感想です。些細な感想も私には大きな力となりました。いつもは素直に言えませんが、本当に感謝しています。ありがとうございます。

この賞を励みに、これからも書き続けていこうと思います。

諦めないこと

高3　細川　典子

私は高校1年生の頃からずっと文芸部で活動していました。ですが、まさか自分が中国ブロック大会で入選するなんて思ってもみませんでした。

私がまだ1年生の頃は作品集を作って部内で批評する機会が2度しかなく、当時の私はその2度の活動ですら大変だと感じていました。だから2年生になって、これからは毎月作品集を作り批評し合うと言われたときは本当に驚きました。去年の6倍なんて、私にできるだろうか。そう思ったこともありました。ですが、部員同士で各々の作品の良いところや弱点について意見を交わし合ったり、先生方にアドバイスを頂いたりして活動した結果、入選を果たすことができたので、頑張って良かったと心から思えました。

今回の賞は決して私だけの力で獲ったものではありません。先輩や後輩、先生方のお力を借りたから成し遂げられました。本当にありがとうございました。高校を卒業しても機会があればぜひ執筆していきたいです。

《書道部》

高3　藤井　基輔

私は第17回高校生国際美術展に出品し奨励賞を受賞しました。昨年も挑戦しましたが、佳作だったので、今回受賞できてよかったです。私は小学生の頃より書道を習っていました。そこである先生に出会ってから書道というものにのめりこんでいきました。その先生と出会うまでは、半紙に墨書きするのが普通だと思っていましたが、その先生は創作や大作に挑戦することを教えてくださいました。大きな作品では2mを超えるものも書いてきました。初めて書くときは真っ白な紙を墨で彩ることに緊張もありましたが、大きな作品に繰り返し挑戦することで楽しくなり、多くの大会に出品して様々な賞をいただけるようになりました。

今回受賞した作品も完成までに何か月もかかりましたが、いつも応援してくれる家族や指導してくださった先生に感謝し、これからは書道で学んだことを忘れずに社会人になる者として頑張っていく心づもりです。

《音楽部コーラス》

初めての総文祭

中2　小川　明郁

私は今回が初めての総文祭（全国高等学校総合文化祭）でした。その、自分の中で初の全国の舞台で歌った曲は、『はじまりの春』と『俵積み唄』でした。

一曲目の『はじまりの春』は、今回の舞台が初演でした。私は正直、自分達が日本で初めてこの曲を歌うということが、すごいプレッシャーですごく不安でした。だけど、こんな良い曲を世の中に出すんだったら、自分達は堂々と歌わないと駄目だと思い、全国の人にこの歌を届けようって気持ちで歌ってみました。そしたら、なんだかすごく自信をもって歌えた気がしました。初演が成功して本当に良かったです。

二曲目の『俵積みの唄』は、自分の中で結構好きな唄でした。だから、この全国の舞台で歌えることがすごく嬉しかったです。この曲は結構練習してきたし、たしかに難しい曲ではあったけど、大丈夫だと思っていた。でも、いざ本番前となって舞台そでにいると、すごくきん張してきて、すごく自信のあったこの曲も上手に歌えるか、本当に心配になりました。舞台に立つと、心臓がバクバクで、それでも、やっぱり好きな歌だから自信もって頑張りました。最後の歌詞の「億万

長者と！」がホールで響いて、すごく気持ちよく歌い終わることができました。その瞬間、すごく安心して、歌い終われて良かったなーって思いました。

総文祭では、色々な県の歌を聴くことができました。どの学校も、口が縦に開いていて口角があがっていて、自分が普段の練習で出来ていないことが出来ていて、すごいと思った。基本からきちんとやって、初めて良い歌が歌えるんだなと思った。総文祭でいただいた講評を頭において、これからの練習で、技術面や精神面、いろんな面で成長していきたいです。また、どんなコンサートでも、金光学園代表なんだという自覚をもっていきたいと思います。

《相撲》

全国中学生相撲選手権大会出場

8月19日～21日に、石川県石川総合体育館で行われた大会に、中3森永慶之君が出場しました。

「1日目は予選を行い、徳島・宮崎・愛知県代表の選手と試合をして、全勝で勝ち上がることができました。2日目の決勝トーナメントでは、1回戦でこの大会で優勝した熊本代表の選手と試合をし、力・技術ともに圧倒されましたが、日本一の実力と、自分との差に気付く良い経験ができました。

次の試合に向けて、柔道とも両立しながら頑張っていこうと思います。応援してくださった皆さん、本当にありがとうございました」と語る森永君。

この経験を糧にした今後の活躍に期待しています。

《フィギュアスケート》

フィギュアスケート数々の大会で活躍

中3の木科雄登君が様々な大会で活躍しています。

8月7日～8日にはフィリピン・マニラで行われたアジアントロフィーに出場しました。

「ショートプログラムでは、参加者の中では2人だけだった3回転フリップ＋3回転トゥループを跳ぶことができました。フリープログラムではトリプルアクセルにトライしましたが失敗し、思うような演技ができず最終6位でした。結果は出せませんでしたが、色々と勉強できた試合でした」と語る木科くん。その後の試合でその悔しさをばねにした活躍を見せています。

9月7日に横浜で行われた世界ジュニアグランプリシリーズに出場し9位。

同月に倉敷市で行われた中四国九州フィギュアスケート選手権大会のシングルスケーティングで自身初の180点台を叩きだし、第1位を獲得。

さらに10月に京都で行われた西日本ジュニア選手権大会でも第1位となり、自分への手応えを感じたそうです。

11月17日に北海道で行われる全日本ジュニア選手県大会で最高の演技をしたいと抱負を語ってくれました。

《少林寺拳法部》

「平成28年度全国高等学校総合体育大会」

7月29～31日、岡山県美作市「宮本武蔵顕彰武蔵武道館」において、インターハイが開催され、男子団体演武の部に高2の友田直陽君、佐藤秀紀君、山中信助君、河村征君、高1の佐藤謙成君、衛本廉温君、谷聡市朗君の7名が出場した。健闘したが、惜しくも予選敗退だった。

インターハイに出場して

高2　友田　直陽

僕たちは、7月29～31日に岡山県で開催されたインターハイに出場し、また総合開会式にも出席しました。総合開会式ではたくさんの応援を受け、メンバー全員翌日の大会への士気が高まりました。大会当日はぎりぎりまで微調整を重ね、本番に臨みました。正直納得のいく演技ができず、悔しい思いをしましたが、それが今の練習のモチベーションになり、頑張れているので良い経験になりました。

「第10回全国中学生少林寺拳法大会」

8月13・14日、大阪府「守口市民体育館」において、全国中学生大会が開催され、女子団体演武の部に中3米村咲南さん、近藤瑞浦さん、中2能勢采奈さん、塩谷明美さん、難波朋楓さん、笠原麻由さんの6名が出場した。予選でコート7位（6位までが決勝進出）で惜しくも予選敗退だった。

緊張の中で得たもの

中3　米村　咲南

私たち少林寺拳法部は、団体演武の部に岡山県代表として出場しました。自分にとっては、初めての全国大会で緊張しました。大会に出る他の選手たちを見ていると、みんな上手な人ばかりで、もっと緊張しましたが、それ以上にその人から学べることは学ぼうとも思いました。直前までずごい緊張でしたが、自分たちの出せる精一杯を出し切って頑張りました。結果は惜しくも予選敗退で、決勝には出ることができなかったけど、自分たちにとってとても良い経験になりました。この大会に出ただけではなく、そこから得たことがたくさんあると思います。大会で得たことを自分自身の身に着け、これからの練習に生かして、高校になってもそれを生かせるようにこれからもがんばります。

「2016年少林寺拳法大会inおおいた」

10月29・30日、大分県別府市「別府国際コンベンションセンター」において全国少林寺拳法大会が開催され、本校からは、男子単独演武級拳士の部に高2の河村征君、男子単独演武有段の部に高2の友田直陽君、男女組演武有段の部に高2の井上日和さんが出場した。単独演武有段の部の友田君は予選敗退だったが、単独演武級拳士の部の河村君は最優秀賞（第1位）、男女組演武有段の部の井上さんは敢闘賞（第4位）にそれぞれ入賞を果たした。

心も鍛えたい

高2　河村　征

僕は10月29・30日に大分県で開催された全国少林寺拳法大会に出場しました。僕は男子単独級拳士の部に出場し、優勝することができました。優勝できたのは学校の先生や家族の支えがあったからだと思います。また、競技だけでなく、夏に訪中で中国に一緒に行った人たちと会うことができ、親睦をより深めることができました。これからも体はもちろん心も鍛えていきたいと思います。

《陸上競技部》

次につながる大会

高2　乾　俊介

10月15・16日に行われた、中国高校新人陸上競技大会に出場しました。僕にとっては初めての中国大会でしたが、いい緊張感の中、試合に集中することができました。しかし、結果は満足できるものではありませんでした。甘くないなと痛感しました。それでも、インターハイに向けとてもいい経験を得ることができました。今大会は、結果以上に発見や収穫が多くあり、次につながるものだったと思います。

中国新人大会に出場して

高1　眞田　明日香

私は、10月15日、16日に島根県で行われた中国新人大会の女子砲丸投げに出場しました。初めてのグラウンドということで不安もありましたが、優勝することができました。来年度の大会に向けて、今回見つかった問題を改善するべく、日々の練習を大切にしていつも挑戦者の気持ちを持ちさらに上の目標を目指したいと思います。

ＳＳＨ宿泊研修記

【大田記念病院　一日医療体験】

日　　程：7月29日（金）
参加人数：22名（中3　6名・高1　6名・高2　5名・高3　5名）

まず、大田章子先生から「超高齢化社会の中学生として」というテーマで、高齢化社会における病院の意義や、介護の際の上手な病院の利用の仕方を学んだ。

その後医師・薬剤師・技師・療法士・看護師といった10種の役職に就く方々からそれぞれの仕事について教えて頂いた。

午後は救急処置の対応についてＡＥＤを使った実践を行った。何度も繰り返し練習することで全員がスムーズに処置を行えるようになった。

その後は希望部署の見学。普段使われている機械や日常の医療行為のお話などを聞き学びの多い1日となった。

以下参加生徒の感想を紹介する。

「医療関係の仕事に就くには、学力はもちろん体力やコミュニケーション能力がとても大切なことが分かった。体力面に関しては部活動、コミュニケーションにおいてはボランティア等を通して向上させたいと思った。職種紹介では、あまり知らない職種についてもお話を聞くことができ、参考になった。それぞれに役割があり、連携が大切なことが分かった。院内の見学では、新人の看護師さんたちの実習姿を見ることができ、自分が看護師になった時、こんな感じなのかなと思った。注射は難しそうだったけど、経験をつんで上手くなっていくのだと思うと、諦めず、根気強い人材になる必要があると感じた。また、救急救命室を見て、急いで人を助ける必要があるので、素早く的確な判断ができないといけないことも分かった。今日の体験で、看護師になりたいという気持ちが一層大きくなった」。

【岡山大学医学部訪問】

日　程：8月1日（月）～2日（火）
参加人数：6名（中3　1名・高1　5名）

からだを動かすしくみを見てみる「細胞生理学」と目で見えない生き物の世界を見てみる「病原細菌学」コースに分かれ、実験実習を2日間に渡って行った。

1日目は手術室や病院内の見学なども行い、医療教育統合開発センターにてシュミレーター指導を受けた。2日目は実験実習に基づいた発表資料を作成し、合同発表会を行った。

以下参加生徒の感想を紹介する。

「今回の2日間にわたる研修では、学校では行うことができないことを体験させていただきました。今まで見たこともないし、触ったこともないウシガエルを安楽死させ、自分で皮をとったのは勉強になりました。学校でも習ってないし、全くなにも知らない中で実験を行うのは正直大変でした。しかし、大学の先輩に器具の使い方を教えていただき、大学の先生には分からない所の説明を聞かせていただいて、本当に大学生になった気分でした。今までで一番大きな会場でプレゼンをさせていただいて、発表の度胸がつきました。注射の実習は私達患者の気持ちも分かったし、注射をする人の緊張する気持ちも分かりました。この研修を通じてより、医学部に行きたいと思いました。（細胞生理学コース選択者）

【関西方面研修旅行】

日　程：8月9日（火）～11日（木）
参加人数：9名（中2　4名・中3　2名・高1　3名）

8月9日（火）

堀場製作所にて施設見学などの研修

生徒の感想から

○工場のつくりが印象に残った。製品ができたとき、トラックに運びやすいように上の階の方では小型機械、真ん中の階では中型機械、下の階では大型機械を作るように工夫してあったので驚いた。

○外国から来た人にでもきちんとコミュニケーションがとれるように、英語を勉強する場所まであると聞いて「そんなことまでしているのか！」と思った。

8月10日（水）

JICA関西・関西学院大学にて研修

生徒の感想から

○日本は発展途上国に依存していることが分かった。今までは日本は技術力が高く発展している国だと思っていたが、本当は途上国の存在があったからこそ発展できたのだと知った。そして環境問題については他人事と思わないようにしたい。

8月11日（木）

神戸国際展示場にて、SSH生徒研究発表会見学

全体を通しての感想

「今回の研修を通して思ったことは、企業では外国人と接する機会が増え、英語が話せることが必要となっていることを、話を聞いて改めて思いました。また、日本も震災の時に外国からの支援にお世話になったので、技術などを他国へ教えるなどのことをするべきだと思いました。大学に入るためには、英語で点数をとることが必要だと思いますが、テストのためだけではなく、社会に出ても大丈夫なくらい身につけないといけないのではと思いました」。

金光学園での交流が日中友好の懸け橋に

中国・江西省南昌市 第二中学校 訪問団 来校

7月25日（月）

7月25日（月）、岡山県姉妹都市・中国江西省から南昌市第二中学校の生徒22名と陳平副校長先生をはじめ、先生5名が来校されました。南昌二中は1901年創立の中高一貫校で、全校生徒は4,729名（職員485名）で、毎年北京大学や清華大学などの名門大学にも進学している進学校です。今回が、日中相互訪問の4回目ということです。

一行は7月22日（金）に岡山入りし、23日（土）に県内高校生宅にホームステイをしました。金光学園の7家庭の皆様にも大変お世話になりました。今回の訪問中の学校交流は学園だけで、まさに日本の中高生代表として、南昌二中の皆さんと交流しました。

予定より少し早めに到着し、記念講堂を見ていただいた後、歓迎式会場の120記念館大講義室へ案内しました。中3の皆さんが立って拍手する中を入場してきた生徒の皆さんの少し緊張した表情が印象的でした。金光校長と南昌第二中学の陳平副校長先生と代表生徒の挨拶の後、中3の皆さんが英語で学園紹介のプレゼンを行いました。その後わずか10分ほどでしたが、グループに分かれて自己紹介などを、英語を使って行いました。さすが中3生、上手に話をしてくれ、あっという間に、南昌第二中学の皆さんを和ましてくれました。

2限は、高2の6組の皆さんとの漢文の授業。漢詩を題材に授業を進められ、内容の確認をした後、日本語での読み方と中国語での読み方を互いに教え合い、

最後に代表生徒に発表してもらいました。

3限は、高1の1組と6組の皆さんとの英語の授業。ベン先生オリジナルの英語クイズをグループごとに話し合い、正解数を競い合いました。正解すると南昌二中の皆さんと歓声があがるとともに、映像を使った問題では笑い声が聞こえ、とても楽しそうな雰囲気で授業がすすめられました。

4限は昼食交流。テーブルを囲んで、お弁当と清水白桃に舌鼓をうちながら、英語で交流を深めました。

最後は送別式。音楽部吹奏楽団、ホスト生徒の皆さん、国際交流クラブのメンバーで、大講義室に準備したイスがいっぱいになりました。挨拶と記念品の交換をした後、南昌二中の皆さんが、代表生徒の歌（ドラムセット・ギター・ピアノ伴奏）と、全員で中国の伝統的な踊りと歌を披露して下さいました。吹奏楽団が2曲演奏した後、最後に記念撮影をして、送別式を終えました。

一行はバスに乗り込み、正面玄関で見送りました。

送別式の挨拶の中で、南昌第二中学の陳平副校長先生は、金光学園での交流に大変感激をされたこと、岡山の桃が大変おいしかったことなどを話され、これからも交流を続けていきたいと言われました。また、同行された岡山県の職員の方々も、大変喜んでくださり、今回の交流事業を金光学園に来てよかったと話されていました。

今回、生徒の皆さん全員と交流する機会はありませんでしたが、皆さんのおかげで金光学園での交流が心に残るものになったのは間違いありません。お世話になった皆さん、ありがとうございました。

暑い夏に、英語づけの楽しい３日間になりました!!

Konko Gakuen Summer English Village

＝8/20（土）～22（月）12コマの英会話レッスン＝

今年度初めて『Konko Gakuen Summer English Village 2016』を∞月20日（土）～22日（月）に、中学1・2年の希望者49名の参加で行いました。ベネッセコーポレーションとベルリッツ英会話学校の協力のもと、1日4コマの授業を、5名のネイティブの先生が交代で10名1グループの生徒を担当し、様々な内容の授業を展開しました。最初はやや緊張気味の生徒の皆さんも、明るく楽しい雰囲気で授業を進めて下さる先生方のおかげで、かなりテンションが上がってきて、積極的に英語を話すようになりました。

最後の授業は、ほつま体育館でのフリスビー。暑い日でしたが、気持ちのよい汗を流しました。閉講式では、一人ひとりにネイティブの先生から修了証を手渡してもらいました。皆さんの満足そうな表情が印象的でした。

★アンケート結果　（49名　一部抜粋）

Q2　授業内容はどうでしたか？

【とても良い　38人　まずまず　9人　普通　2人】

Q3　講師陣はどうでしたか？

【とても良い　45人　まずまず　3人　普通　1人】

Q4　今後この企画に？

【ぜひ参加したい　34人　参加してもよい　14人】

《感想など》

♪授業内容は思っていたより良かった。先生の教え方などがすごく良かったです。

♪ゲームや遊びで英語と触れ合えるので、楽しみながら英語と接することができた。

♪身近にあるテーマに基づいて、色々な英語の表現や単語を勉強することができたので、とても有意義なものになったと感じています。

♪先生方がとてもユニークで楽しい人たちで、授業も分かりやすく、すべてが楽しかったです。また参加したいと思いました。

♪英語を話すことをたくさん行うことができた。全く知らないことでも、実際に店員になったりマップを作ったりすることで、よく分かった。本当の生活でも役立つことだと思った。

♪先生方の優しい教え方に、どんどん英語が楽しくなっていきました。またベルリッツの先生方に会って話してみたいと思います。

♪どの先生もテンションが高く、私たちに明るく、気軽に話しかけて下さり、いつもは外国人がいてもうまく話せなかったけど、3日間でたくさんの英語を使って会話ができて嬉しかった。自分から英語が話せたことが一番嬉しく、とても楽しかった。

♪学校の授業とは全く違う、ゲームなどを織り込んだ、とても楽しい授業だった。先生方の発音を聞いたり、字を読んだり、体を使ったりと、全身を使って英語を学ぶことができた。

♪英語が苦手だったんだけど、ちょっと分かったらとても嬉しかった。とても楽しかった。

♪もっともっと英語について、いろんなことを知りたくなった。今まで知っていたことも知らなかったことも、もっと勉強したくなった。

♪少人数の授業だったから、発言しやすかった。とても分かりやすい授業で、一日一日がとっても楽しかったし、とても良い思い出になりました。

♪来年は3年生で参加できないので、今後も参加できる機会を作って欲しい。

仁川英語村海外研修

５回目となる韓国・仁川広域市英語村研修。
今年度は17名が参加しました。様々なプログラムを通じて、「徐々に話せるようになって楽しかった」「失敗を恐れず英語で話すことができた」「先生たちと仲良くなれた」など、英語力の向上を実感していました。

仁川英語研修

中２　唐木　歩夢

７月28日から８月４日にかけて仁川英語研修がありました。日程を見てみると英語レッスンなどがぎっしりと書いてあり、最初に見た時、「これはキツイ１週間になりそうだ」と思いました。

僕がこの研修で残ったことはたくさんありますが、抜粋して５つ程度書きます。

１つ目は、初めての飛行機と外国です。僕はこの研修に参加するまで、飛行機に乗ったこともないし、海外へ行くこともなかったので、みんなの足を引っ張ってしまわないかと不安でした。でも友達が飛行機はどんな感じか教えてくれたおかげで、安心して研修を始めることができました。

２つ目は、寮での生活です。海外で同級生４人と過す日々は毎日が新鮮でわくわくしたものでした。朝はなぜか「ＩＣＥＶ」の曲が爆音で流れました。初日はこの曲のせいで壁に頭をぶつけてしまいました。それ以降は早めにアラームをかけて心の準備ができるように対処しました。夜は、地元の小学生と遊んだり、カップラーメンを食べたり寝る前に皆でその日の日記を書いたり、僕は宿題も少しだけして寝ました。本当に一日一日が楽しかったです。

３つ目は毎日の食事です。食堂のご飯はとても美味しいものもあれば、とても辛いものもありました。特に毎日出てくるキムチは本当に辛かった。でも美味しそうだから辛いと思ってもつい２，３個取っちゃいました。食堂で食事をすませた後は、ＩＣＥＶに一つだけある「ＣＵ」に行って、おやつを買ったり飲み物を買ったり、夜のためにラーメンを買いだめしたりするなど毎日が発見だらけでした。

４つ目はたくさんの先生との交流と、楽しい授業です。僕のお気に入りの先生は、「ダニエル」と「モンキー」と「ソニック」と、たくさんいます。毎日きつきつの授業でしたが、どの授業も面白く、「ブルースタンプクイズ」や「プロジェクトイングリッシュ」は特に面白かったです。あと「ファンタイム」も。全部が全部難しい授業ではなく少しほっとしました。

５つ目は、財布をなくしたことです。「ロッテワールド」から帰ってくるバスの中で財布を無くしてしまいました。しかも、その中には７０００ウォンが。ショックでした。でも両替できると聞いて本当にほっとしましたが、クリスマスに買ってもらった財布だったので、母に悪いことしたなぁと反省しています。でもこれもいい経験になりました。

もっともっと書きたいことはありますが、ここらへんにしときます。あと部活動に行った時「はい」を「Ｙｅｓ」と言いそうになりました。また来年も行けたら行きたいなぁと思っています。とても楽しくいい研修でした。

仁川英語村研修

中２　片岡　鈴花

初めての海外。初めての韓国。期待と不安につつまれた７泊８日。私にとって長いようで短かった仁川英語村研修。

あたしは英語が全くできませんでした。だから今回の英語研修に参加してみようと決めました。日程表を配られた時、英語レッスンとたくさん書いてあったのでえーと思いましたが、いざ授業を受けてみるとたのしくできました。私がいちばん印象づいたのは、「マガジンメイキング」です。コンピュータを使ってパワーポイントをつくる授業です。私は、「日本のお菓子」について書きました。コンピュータと電子辞書の２つを使ってつくりました。英語で調べて英語でかく。これをしないと全く完成しません。とても難しかったけど完成した時のよろこびが忘れられません。

７日目の「ロッテワールド」。先輩と２人で楽しく遊びました。韓国の遊園地でも英語でしかしゃべれないので頑張ってしゃべりました。先輩にたよってばかりだったけどそれじゃあ意味ないなと気づき文法がずれていても自分の言葉でしゃべるということだけに集中しました。

私は英語のすばらしさと楽しさがよくわかりました。今まで英語を全くしなかったけど今回を通じて英語を頑張ってみようと思いました。

仁川英語村で感じたこと

中３　遠藤　稔文

「仁川英語村」。最初この言葉を聞いたとき、僕は行く気が正直全くありませんでした。しかし、数週間過ぎたある日友達から一緒に行こうと誘われました。

そしてこの仁川英語村で感じたことは大きく分けて２つあります。１つ目は異国の文化、言語に触れるということです。仁川英語村では授業は全て英語です。僕たちは普段日常生活では日本語を使って

います。そのため外国の言語を話すというのがどれほどむずかしいということが改めて実感しました。

２つ目はコミュニケーション能力です。僕は最初相手に何かを英語で伝えたい時、「失敗したらどうしよう」「どうやって伝えればよいのか」など思ってうまく話せませんでした。しかしこの仁川英語村に行って気づいたのは、「失敗を恐れない」ということです。だまっていても相手に何も伝わらないし、ただ損をするだけです、それだったら失敗しても一生懸命自分の想いを相手に伝えた方がよっぽどいいとこの時思いました。

この仁川英語村に行って本当に良かったと僕は思います。なぜならこの仁川英語村に行って英語がとても好きになったからです。今までは学校の授業で何となく授業を受けていた部分がありました。なのでこれからは、一秒一秒を大切にしてしっかり「英語」につて学んでいきたいです。そして将来は英語を使って活躍できる仕事、あるいは人になりたいと思います。

最後にこの仁川英語村に連れていってくれた親に感謝の気持ちを伝えたいです。

仁川英語村研修

中３　永原　凛弥

７月27日から８日間、仁川英語村研修に行った。英語村に行こうと思った理由は２つある。１つ目は、目黒先輩の言っていた、「英語で大切なのは文法ではなく度胸だ」ということを体験してみたかったからだ。英語は文法が大事と思っていたので新しい感覚を肌で感じてみたかったからだ。２つ目は、異文化を感じてみたいと思ったからだ。英語村には色々な国の人がいると聞いていたのでとても楽しみだった。

英語村は１つの学校のようなものだった。「寮」「食堂」「勉強をする棟」の３つの建物にわかれていた。そこにいる先生たちは、カナダやアメリカなど色々な国籍で日本のどの先生よりもテンションが高く話やすかったので先生と生徒の距離がとても近かった。最初は「授業大変」と思っていたけど実際は英語でコミュニケーションを楽しもうというもので、とても簡単でネイティブの発音が聞けるのでとてもいい体験になった。また、授業の種類も豊富で、「マガジンメイキング」や「スポーツ」など色々あった。夜は自由な時間が多く自由時間も確保されていたのでうれしかった。

２日目か３日目くらいにみんなが消極的になってしまい、先生たちとの会話が減ってしまった。そんな時に角南先生が盛り上げてくれてとてもうれしかった。その後は吉男を中心にだんだんと会話が多くなっていったので良かった。これも

はじめての経験だった。

この研修で大きく学んだことが２つある。１つ目は、「英語は度胸があれば伝わる」ということだ。実際、僕の英語の文法は全くちがったけれど何度も必死に伝えれば必ず理解してくれた。目黒先輩の行っていたことがやっと理解できて実感できたと思う。２つ目は、友達を大切にしようということだ。僕が英語で困っているとき友達が助けてくれた。今回で改めて友達の大切さを実感できたと思う。

最後に、この研修には大きなお金が必要だったが、その全てを出してくれた両親に感謝して今後も英語を学んでいきたいと思う。

ＩＣＥＶで学んだこと

高１　松下　愛佳

今回の仁川英語村研修では、様々なことを学ぶことができました。最初は、初めての海外研修ということもあり、不安もありましたが、実際にＩＣＥＶで生活していくうちにその不安も消え、これからの１週間が楽しみだと思えるようにまでなりました。ＩＣＥＶでの生活はとても楽しく、１日があっという間に過ぎていきました。

そうしていくうちに、発表することに自信が無かったみんなも、どんどん発言できるようになり、クラスがにぎやかになりました。そんな中、私には授業以外の楽しみが１つで来ました。それは、韓国の友人達と話すことです。夜になると、私達はお互いの国についてたくさん教え合ったり、今人気な物や好きな俳優、ドラマやアニメなどについて話しました。このように海外の人や友人と話す時、私はある１つのことに注意していました。それは、分からな言葉や単語があっても、絶対にジェスチャーを使わないことです。もし何かわからない単語があり、その単語を身振り手振りで表現してしまうと、相手には伝わっても、自分の英語力で伝わったということにはなりません。だからジェスチャーを使わずに自分で考えて、吟味した英語で伝えるように心がけるようにしました。途中で何度も会話が止まってしまいましたが、何とかして、相手に言葉の意味が伝わったときは、嬉しい気持ちでいっぱいになりました。

この８日間の仁川英語村研修を通して、自分が思っていること、相手に伝えたいことを「英語」を使って表現するという楽しさを知ることができました。今回の研修は英語が流暢に話せるようになったというわけではありませんが、以前に増して英語が好きになったと自信を持って言えるような価値のあるものでした。ＩＣＥＶでの８日間は、私にとって宝物のような時間でした。この研修に参加して様々な力を身につけることができ、本当に良かったです。

高2修学旅行　北海道コース

1日目

2組　宮本　滉太

梅雨入りを迎えた岡山県。晴れの国の空に分厚い雲が広がっていたその頃、僕たちは梅雨のない北の大地、北海道へと出発した。

僕たちはバスと飛行機を乗り継いで、北海道へ向かった。そこまでの道のりは意外と早く感じられた。これから修学旅行だ、とわくわくしていたから時間が経つのを忘れていたのかもしれない。空港から一歩出ると、涼しかった。岡山のあの暑さとはまるで違い、体をすり抜けるような冷たい風が吹いていた。早速、北海道を感じることとなった。

バスへ乗り、気さくなバスガイドさんの案内で、まずは五稜郭へと向かった。園内を散策し、五稜郭タワーに上った。眺めを楽しんだり、ソフトクリームを食べたりと、皆それぞれに楽しんでいた。その後、ホテルへ向かった。

ホテルでは北海道に来て初めての夕食を食べた。どれも新鮮でおいしく、北海道の味に舌鼓を打った。

それから、バスで函館山へ夜景を見に行った。あいにくの天気で頂上からは何も見えなかったけれど、帰り際に少し霧が晴れ、その一部を見ることができ、皆、感動していた。

それから、湯ノ川温泉を堪能し、皆と部屋ではしゃぎながら、北海道修学旅行の充実した初日の夜は更けていった。

2日目

2組　中山　翔太

初めて迎えた北海道での朝は、少し肌寒かった。それは北の大地であることを感じさせるようであった。

2日目は函館自主研修から始まった。僕たちはベイエリアに行った。函館港を間近に並ぶ赤レンガ倉庫群では、函館の歴史に触れると同時に、ショッピングも楽しむことができた。昼食は「あじさい」という有名なラーメン屋で塩ラーメンを食べた。とてもおいしかった。その後、集合時間まで散策した。海産物の匂いであふれていた。

午後からは、まず大沼公園に行った。多少雨がぱらついていたが、自然を感じることができた。そして、ニセコのペンションへ移動した。ペンションでの夕食はおいしく、体も心も温まった。就寝までは友達の部屋を行き来し、話したり遊んだりした。

北海道の大自然を五感全てで感じることができた、とても楽しい1日だった。

3日目

6組　石井　伊吹

雨続きだった北海道だが、3日目は晴れて、ニセコでの体験学習やその後の自主研修を気持ちよく行うことができた。

午前中はラフティング、フィッシング、ダッキー、キャラメル作りなど、それぞれいろいろなことを体験した。僕は、マウンテンバイクに乗った。北海道の大自然とさわやかな風を感じながら、10キロを走りきった。

午後は小樽・札幌で自主研修を行った。昼食は、新鮮な魚介類をふんだんに使った海鮮丼を食べた。その後、スイーツで有名なルタオという店でお土産を買って札幌へと移動しながら、小樽の町を楽しんだ。

小樽から電車で約30分。札幌は、思っていたよりずっと都会だった。夕食は地下鉄で移動してジンギスカンを食べた。とてもおいしく、北海道ならではの食材を楽しむことができ、充実した自由行動になった。3日目までお金を使わなすぎて焦っていたのに、一瞬でお金が飛んでいって無くなるのでは…と焦ってしまった。

札幌で宿泊した東京ドームホテルは豪華すぎてとても驚き、そして本当にこのホテルで合っているのか、と疑ってしまうほどだった。ホテルでは疲れていて、皆すぐに寝てしまった。

4日目

4組　池岡　彩夏

修学旅行4日目。ホテルから一歩出ると風が強く吹き、札幌の朝はかなり寒く感じられた。

まずは旭山動物園に行った。この動物園の特徴はやはり「行動展示」という独特の展示方法だ。動物たちが檻やケージの中に閉じ込められるのではなく、より自然に近い環境で飼育されている。早速、園内を散策した。ライオンが仰向けでお腹を丸出しで寝ている、猛獣らしからぬ姿にとても癒されたが、何と言ってもお目当てはホッキョクグマだ。大きく真っ白な体に小さなしっぽが可愛らしい。その姿を見るのが初めてだった私は、目を離すことができなかった。

次は富良野に向かった。その道中、バスから見た美瑛の風景にとても感動した。ファーム富田に着くと、6月とは思

えない寒さに驚いた。あたり一面爽やかな香りに包まれ、きれいな花がたくさん咲いていた。北海道の自然の美しさを全身で感じることができた。

そして、夕張へと向かった。夕張市は日本で唯一財政破綻した町だ。そのことを私は知らなかった。夕張市の歴史と現状についてを、金沢信也さんが私たちに講話をしてくださった。全盛期からどのようなことがあって、衰退していったのか分かりやすく話してくださった。少しでも早く活気が戻ればいいなと思った。

私にとってとても充実した1日になった。

5日目

1組　河野　鈴花

修学旅行最終日の朝、私は雨の音で目を覚ました。ただでさえ寒い北海道の雨の日は、より一層肌寒く感じられた。

最終日、私たちはまず始めにホテルで夕張メロンジャムを作り、その後アイヌ民族博物館を訪れた。アイヌ民族については、教科書の中に出てくる日本にかつて存在した民族、というイメージしかなかった。博物館では、アイヌ民族独特の楽器の演奏を聴いたり、死んだ者の魂を送るための踊りを見たり、食文化を体験したりした。

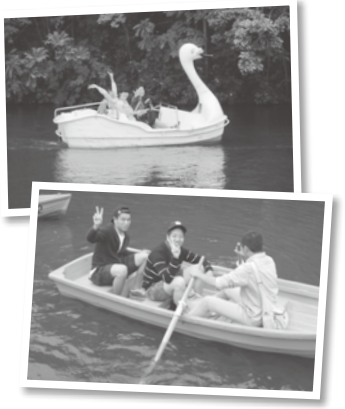
改めてアイヌ文化について深く知ることができ、「日本には独自の素晴らしい文化を持った民族がいたんだ」と、良い意味で最初のイメージを変えられたのではないかと思う。

次に私たちは、ノーザンホースパークに行く予定だったが、あいにくの雨で中止になってしまった。動物が好きな私は、密かに楽しみにしていたので、とても残念だった。またいつか行きたいと思う。

そして、私たちは岡山空港に帰るために、新千歳空港へと向かった。空港は想像していた以上に広く、いろいろな種類のお店があり、北海道のお土産もたくさん買うことができた。

帰りの飛行機の中で、北海道での思い出を振り返っている間に、岡山空港へ着いた。

北海道の文化や伝統に触れ、多くのことを学べた修学旅行だったと思う。



高2修学旅行　オーストラリアコース

1日目

1組　小林　千夏

中学生の頃から期待して待ちわびていた海外への修学旅行。私は海外へ行けること、ファームステイできることに魅力を感じてこのオーストラリアコースを選びました。お昼に学園に集合・出発して関西国際空港までの移動時間では友達と喋りながら受け入れてくれるホストファミリーは一体どんな方なのか、向こうのご飯は美味しいのか不味いのか、空港の審査でひっかかったらどうしようとか、機内でちゃんと眠れるのか・・・ととりとめのないことを頭の中で巡らせていました。関西国際空港で少し軽食をとったりして時間をすごした後に審査を済ませ、期待よりも大きな不安を抱え機内へ乗り込みました。離陸前後はこれまた友達としゃべってみたりして、のほほんと過ごしました。そして配布された機内食のうどんを美味しく頂きました。翌日は本当に朝早くに起きなきゃいけないので寝ようとしましたが、私は寝付けず30分置きに起きては寝ての繰り返しで、ちょっと疲れました。もし次に機内泊することがあるなら、もう少し気持ちを落ち着かせてから泊まろうと思いました。

2日目

6組　奥野　佑一

朝の7時、僕は同じ班の人に起こされた。僕以外の4人はすでに起きていたようだ。オーストラリアに来て1日中、出発日も含むと2日も行動して、寝たのは夜の11時ぐらいだろうか。僕も、他のメンバーも疲れが出ていただろう。それでも朝早く起きれる人はすごいなぁと、僕は尊敬した。朝ご飯はホストマザーが張り切って作ってくれた。いつも僕が日本で食べているものより、いいバランスで、おいしかった。雨が降っていて、ファミリーが「今日はどうしようか」と相談していた。やる事が減ったそうだ。

午前中は農作業をした。僕が訪ねたファミリーは主に牧畜をしている。鶏、牛、馬の世話をしている。班の中の1人は特別な作業をした。ホストファザーに気に入られたからだという。僕を含む、残った4人はマザーと行動した。最初に鶏のエサの準備をした。鳥の飲み水、昨日の夜ご飯の残飯と鶏のエサをあげた。一つ一つが地道な作業だったが、これも大切な仕事だ。そして、僕は昨日のご飯の残り物を鶏にあげている光景を見て、「これならゴミが出なくて、環境にも優しいなぁ」と感動した。雨は降ったり止んだりで、それに合わせて雨具を調節するのは面倒だと分かり、このままカッパを着た状態で続けることにした。

その後、ライアンのミスで牛2頭が間違ったところに入ってしまった。僕たち4人は、その牛を元に戻すことにした。しかし、牛は思ったよりも早く、追い込みづらかった。土は濡れていて、走りづらかった。なんとかして牛たちを戻す事が出来たが、くたくたになった。僕たちは休憩した。ミネラルウォーターとお菓子、リンゴをくれた。そのリンゴは日本のものよりも小さかった。しかし、おいしかった。もっと食べたいと思ったが、マザーは1人1個ぐらいしか持ってきていなかった。

その後30分、ホストマザーに言われて、雨宿りをした。僕はここに来てから初めて、冷静に周りの風景を見た。雲が低く垂れこめていて、遠くの草原や木がぼやっとしていた。もし晴れていたら、僕はどんな風景が見れたのだろうか。マザーに呼ばれて出てみると、牛たちが綱にひかれた状態で準備をしていた。そう、僕たちは牛を引っ張った。このような経験はこの4人の中で誰もない。ある人は最初牛に嫌われ、またある人はなかなかまっすぐ進めず、さらに、ある人は何だかんだ言って一緒に進む。初めての事は、最初から誰も慣れていない。そう僕は思った。しかし時間が経つにつれて、だんだんと慣れてきた。牛に指示をするのが楽しくなってきた。最後には、誰もがもっとしたいと思った。

昼食はミートパイとフライドポテト。僕は初めてミートパイの正しい食べ方を知った。上手くできるには、まだまだ時間がかかりそうだと思った。雨が立て続けに降り、外での農作業が難しくなった。その代わり、ホストマザーと「トラブル」というボードゲームをして遊んだ。ルールを理解するには少し難しかった。でもマザーと楽しむことが出来た。

夜ご飯はローストチキンだった。ボリュームがあって、とてもおいしかった。ここで、昨日は到着してすぐにご飯を食べたため、自己紹介ができていなかったので、簡単な自己紹介をした。正直、僕の英語力は他のメンバーと比べると、あまりよくないと思う。自己紹介がうまく伝わるか心配だった。しかし、ホストマザーにうまく伝わったので、安心した。それから、僕は少しずつマザーに少し質問をするようになった。そこから話が膨らむこともあった。充実した夜になった。

この1日、オーストラリアの、アサートン高原という今まで聞いたことがなかった所で過ごした。豪州は自然が日本とは違う。そう感じたことが何回かあった。それに、ホストファミリーが優しく、僕たちの世話をしてくれてありがたいと思った。そして、班のみんなとも協力できて、絆が深まった。いい思い出ができた。

3日目

1組　浅野　日向子

朝9時起床。本当はもう少し早く起きる予定だったが、ホストマザーが疲れていると思って遅くまで寝させてくれたらしい。

朝ご飯はホストファザーが作ってくれたパンケーキと、シリアルとオレンジジュース。シリアルはいろんな味のストックがあって、日本で見る物よりも箱が大きかった。ホストファザーのパンケーキもとてもおいしかった。バターや蜂蜜やジャムなどを塗って食べた。

朝食の後はみんなでチョコレートスライスとオレンジジュースを作った。私と石田さんがオレンジジュース担当、倉田さんと宮嵜さんがチョコレートスライス担当になった。オレンジジュースは家で取れたオレンジだけを使ってつくる100％果汁のジュースだった。味も作り方も新鮮でとてもいい経験になった。チョコレートスライスはチョコレートケーキのようなもので初めて食べたけど、甘くておいしかった。

次に庭にあるトランポリンで遊んだ。トランポリンをするのが初めてだったが、難しくなくて面白かった。一緒に庭にいた犬のジャックと猫のリサとも遊んだ。気がつくと1時間以上経っていた。

お昼ご飯の後、ホストファザーがバイクの後ろに乗せて農場を回ってくれた。バイクの後ろになんて乗ったことがなかったので早くて怖かったけど、風が気持ちよく、ホストファザーもやさしくてとても楽しかった。

その後はホストマザーがトラックの荷台に乗せてくれた。ご近所さんのブーという牛よりももっと大きな動物に触らせてくれた。オーストラリアの人たちは本当にやさしいと感じた瞬間だった。

私たちのファームでの一番の仕事は、鶏が産んだ卵を回収することだった。まず鶏にえさをあげてその隙に回収すると

いう、簡単な仕事だった。私たちが回収した時には11個も産んでくれていた。ホストマザーも、私のときは4個ぐらいなのにと驚いていた。

晩御飯の後、なにかお礼ができないかと考え、私たちはコーラス部員なので最終日に歌をプレゼントすることにした。曲はスピッツの「空も飛べるはず」に決まった。

私は、この1日で日本ではできない多くのことを経験した。上手くいくことばかりではなかったけれど、非常に充実した1日だった。この日のことを家族や友達にもっともっと話したい。ホストファミリーも楽しくて優しい、最高の家族だった。私は今後もこの出会いと感謝を

忘れず、大切にしていきたいと思う。

4日目

5組　山田　譲

修学旅行の 4日目は、ファームステイ2日目でした。朝は7時ごろに起きて8時ごろに朝食を食べました。朝食のメニューは、まずコーンフレークです。これは昨日も食べました。あとはパンケーキです。このパンケーキには、スライスしたバナナが入っていました。パンケーキはたまに食べるけれど、フルーツが入ったパンケーキは初めて食べました。外国では、朝からこういう感じのものを食べるんだなと思いましたが、とても美味しかったです。

朝食後はホストファザーと出かけました。はじめに湖に行きました。着くまでに1時間もかかったので、途中で寝てしまいました。なので最初見たときは、とても大きく風が強かったので、海に来たのかと思いました。小石を投げて、水切りをしたり、写真を撮ったりして遊びました。次にダムに行きました。車でほんの数分で着きました。記念撮影をしました。次にダムを上からみられる場所に行きました。そこで初めてさっきの湖がダムだとわかりました。そして牛と鶏を見に行って帰りました。牛小屋や鶏小屋はあまり日本と変わりませんでした。自分で好きな具を挟んで食べました。

午後は雨が降っていました。ホストマザーと買い物へ行ったり、カモノハシを見に行きました。しかしカモノハシを見ることはできませんでした。その後は、乳牛を見に行きました。実際に見たのは初めてでした。臭かったけれどあまり見られないものを見れました。

ホストファザーはその頃ピザを焼く準備を家でしていました。家には本格的なピザ釜があって、それで焼いたピザを夜食べました。ピザの具は自分たちで盛り付け、ホストファザーがそれを焼きました。とてもおいしかったです。

最後にお土産として、コアラのストラップと日本とオーストラリアの国旗のバッヂと、ホストファミリーが撮った写真の入ったディスクを貰いました。2日という短い間でしたが貴重な体験ができたと思います。これはとてもいい思い出になりました。

4日目

7組　山口　美可

6月16日の朝、ホストファミリーとの別れの時、泣かないと思っていたがいざとなると泣いてしまい、本当に楽しかったファームステイだったと思った。

バスに乗りケアンズの船乗り場へ。天気が心配だったが虹も出ていて安心した。船に乗り外に出てみると海がとてもきれいだった。グリーン島に着き船から出るとさらに美しい海が広がり、日本では絶対見られないと思った。説明を終えていざシュノーケルへ。透き通っていて魚がたくさん見えた。どこまでも浅くてみんなで騒ぎまくりいい思い出になった。グラスボートではカメを見ることができて嬉しかった。

ケアンズに戻り楽しみにしていた自由研修。ケアンズは日本人観光客が多いらしくあちらこちらに日本語が書かれていた。日本人の店員さんもいて、おすすめのお土産を教えてくれたりしていい買い物ができた。ドルにもだんだん慣れてきて、スーパーで買い物もできるくらいに上達した。セントの払い方をもっと頑張ろうと思った。街並みも日本と全然違い、にぎやかな街だった。ケアンズ市内で一番びっくりしたのは、信号の短さだ。バスガイドさんによるとオーストラリアは車優先社会で歩行者優先ではないらしい。信号も青になって20秒くらいするとすぐ赤になりびっくりした。

お土産も買い終えて集合場所に戻るとみんな大荷物でお土産話をして楽しかった。

歩いてホテルに帰り夕食を食べた。オーストラリアでの最後のごはんだと思うと日本に帰りたくなくなった。部屋に戻り荷物の整理をした。思っていた以上にキャリーケースがパンパンで荷物検査がドキドキだった。

最終日

6組　山本　真由

オーストラリアでの修学旅行最終日。長く感じていた6日間があっという間に過ぎていくことに驚きと寂しさを感じた。朝、ホテルを出るといざケアンズ空港へ。多くのチェックを受け、搭乗口で並んでいた時自分たちが乗る飛行機を目の当たりにすると一気に寂しさがこみあげてきた。たくさんの思い出と経験が残ったオーストラリアを離れるのはとてもつらかった。初めてのファームステイ。慣れない英語を一生懸命話して理解してもらえることに喜びを感じた。ナイフとフォークを使って食事をしたりパンを食べたりといったオーストラリアと日本の食文化の違いを体で感じた。行くところでオーストラリアの人は笑顔で挨拶をしてくれた。私たちが日本人だとわかると「こんにちは」と言ってくれた。お金の使い方を教えてくれた。中国人と間違えられた。オーストラリアで日本人と会えた。自然の力の大きさ、動物に対する愛。オーストラリアで学んだことや初めての体験を思いだした。約7時間の長旅を終え、無事関西国際空港に到着した。英語ばかりで書かれていた周りの看板が日本語に変わっているのを見るととても安心した。バスの途中、パーキングエリアで日本食を食べたときとても幸せを感じた。バスで4時間、下渕駐車場に到着。久しぶりに親と再会し、無事家に帰宅することができた。

本当に日本では体験できないことをたくさん体験できたように思えた。この貴重な6日間はこれからもずっと私たちの心の中にあり続けるだろう。

高2修学旅行　シンガポール・マレーシアコース

1日目

1組　長田　麻依

私たちシンガポール修学旅行団54人は、今日無事にシンガポールに着くことができました。初めての海外旅行で、不安や心配もたくさんあります。特に驚いたのがシンガポールの気温と湿度の高さです。チャンギ国際空港の出口から出た瞬間、暑い国独特の「じっとり」とした空気を浴びました。

シンガポールで食べる初めての夜ご飯で驚愕だったのが、何とも言えない料理の味の濃さです。旅行中ずっと味が濃いと思うと、今からお母さんが作ってくれる卵焼きが恋しいです。これから、この旅行が、どんな刺激的なことが待っているのかと思うとワクワクしてきました。この4泊5日の修学旅行が思い出に残る素敵な旅になるよう、存分に楽しもうと思います。

2日目

4組　藤川　美帆

この日はマリーナベイサンズスカイパークに昇ることから始まった。そこではシンガポールの大都会が一望できた。そしてパスポートを使ってシンガポールから出国し、マレーシアへ入国した。マレーシアではまず、ろうけつ染めを体験したが、私は調子が悪く、バスで寝ていた。一緒に訪れていた双子の姉の美羽に感想を聞くと、現地の独特な感じがよく理解できた、と言っていた。

その後、プライ村へ移動し、それぞれの家庭でホームステイが始まった。マレーシアの家は広々としていて、天井にはいくつもの扇風機がついていた。ホストマザーは一人ひとりに変わらない愛情を注いでくれた。名前も覚えてくれて、熱を出していた私のことを気遣ってくれた。晩ご飯はホストマザーの手料理で、お米とツナのカレーと、干し肉、伝統料理のちまきに似たもの、春雨に似たもの

だった。右手で食べるという慣れない作業だったが、みんな修学旅行に来て食べた料理の中で一番美味しいと、おかわりしていた。

夜はみんなでマレーシアの伝統衣装を来て、チョンカという伝統の遊びをした。和気あいあいとした楽しい時間で、私の熱もすっかり引いていた。

3日目

2組　白神　ひかり

今日はホストファミリーとのお別れの日です。ホストマザーが一人ひとりにメッセージを送り、握手をしてハグをしてくれました。涙がこぼれそうになりました。このホストファミリーに出会えて本当によかったです。

マレーシアからシンガポールに戻り、シンガポールのホテルでB&S（ブラザーアンドシスタープログラム）でお世話になる学生の方たちと合流しました。私たち10班は、テイという女の子で、とても可愛く優しい方でした。私たちはテイと一緒に電車とバスの乗りつぎ、オーチャードロードのイオンで買い物をしました。たくさんのブランドのお店が並び、女子の目を輝かせてくれました。楽しみの昼食は、フードコートでそれぞれ自分の好きな物を食べました。私は初めてシンガポールのチキンライスを食べました。チキンとご飯とソースをからめて食べるのがすごく美味しかったです。みんながそれぞれ買いたい物を買えて、本当によかったです。テイと過ごした時間はかけがえのない宝物となりました。国を越えた出会いの素晴しさに気づき、これからも多くの仲間を増やしていきたいです。

4日目

1組　池田　大晃

宿を出発したバスは橋を渡り、セントーサ島へ入った。マーライオン公園のマーライオンとは桁違いなほど大きなマーライオンの前で記念撮影をした後、班ごとの自主研修に入った。私の班を含むほとんどがユニバーサルスタジオに行った。私は班のメンバーに連れられてジェットコースターに乗った。人生で初めてのジェットコースターに乗った瞬間だった。どうだったかと言えば、あのスピード感と縦横への揺れがとても怖く、

二度と乗るかと思ったが、いい経験ができたと思った。その後は昼食を食べたり、お土産を買ったりして過ごした。店の人とのやりとりをするのに英語を使う時はやはり少し緊張したが、以前と比べると慣れてきたという実感が湧いた。

夜になり、修学旅行の最後の行事であり、ナイトサファリを体験した。暗闇の中で様々な動物を間近で見るという貴重な体験をさせて頂いた。そして、この4日間に起こった全ての出来事を噛み締めつつ、チャンギ国際空港へと向かった。

5日目

3組　神原　里奈

午前1時15分、とうとうチャンギ国際空港を離陸しました。疲れきった私たちはあっという間に夢の中へ誘われました。

目が覚めるともう東京。シンガポールの景色とは全然違い、ようやく「日本に帰ってきたんだ」と思いました。日本はシンガポールに比べるととても涼しく感じました。お昼ご飯はずっと食べたかった日本食でした。やっぱり日本食が一番だと心から思いました。

日本に帰ってきて考えるのはシンガポールで過ごしたことと、マレーシアの第2の家族のことでした。過ごしたからこそ分かるのは、水の大切さ、文化の違い、そして国が違っても関係ないということです。

修学旅行中、私たちはたくさんの外国人と仲良くなりました。言葉が通じないからという考えは全く関係なく、お互いが伝えたいという気持ちがあれば必然的に仲良くなれると感じました。この短い時間で私たちはとても良い体験をすることができました。この経験を自分の将来に生かしていきたいと思います。

中学 体育会

「見る」側から「やる」側へ

1年1組　佐藤　弘汰

僕は初めて体育会に参加しました。今までは体育会を「見る」側だったのが、「やる」側に変わり、楽しみにしていました。いつもより短い時間で仕上げた体育会。短かったからこそ、この体育会にかける思いも強く、先輩も僕たちも気合が入っていたと思います。

その中で最も思い出に残ったのは「応援合戦」です。1年から3年まで全学年で行う競技でした。放課後や授業でも毎日練習をしました。ダンスを踊ることに最初は抵抗がありました。でも、先輩が分かりやすく教えてくれ、本番では楽しむことができました。先輩の指導は「わかりやすく・面白く・楽しく」本当に助かりました。時に厳しくなることもありましたが、無事完成しすごいと思いました。その結果、目標であった「とにかく楽しむ」ということを達成した上、応援の部でも優勝できたのはとても嬉しかったです。今のままの僕では先輩のように完璧にまとめる自信は正直ありません。だから、今年の3年生の先輩をいい手本として成長していきたいと思います。

この体育会ではもう1つ思い出に残ったことがありました。それは「400メートルリレー」です。僕が個人で出場する唯一の種目でした。泥の上での走りだったのでかなり緊張していました。第1走者、第2走者、そして僕が走る第3走者まで1位でつながれていました。でも、第4走者にも1位で渡せたものの、僕がバトンのパスをミスしてしまい、距離が縮まり、2位で終わるという結果になりました。2位という結果になったのは、僕が原因なのは間違いなく、悔しかったです。このままでは終われないと思うので、来

年も400メートルリレーに出て、借りを返したいです。また、3年生のリレーも激しく面白かったです。こけてしまうほど白熱するレースでやっぱりすごかったです。

3年生は「マスゲーム」もあり、応援練習だけで僕は一杯いっぱいだったため、先輩のすごさに驚きました。今年の体育会はひたすら先輩のすごさに驚きました。いつも見ていた体育会が多くの先生や生徒たちによって成り立っていることが分かりました。知らないところで、大きな支えや努力があったことを参加してみて、初めて気づきました。雨が降ることもありましたが、楽しく終えることができて良かったです。来年もしっかり楽しみたいと思います。

色々な気持ちで参加した体育会

1年3組　岡部　美桜

私は、色々な気持ちで体育会に参加しました。

まずは、種目を決めるときです。私は400メートルリレーに出たかったけど、他に出たい人がいたので200メートル走に出ることになりました。400メートルリレーは1人が100メートル走るけど200メートルを走らなければいけません。私は200メートルも走ったことがないので不安な気持ちでいっぱいでした。でも友達が、「美桜なら、絶対走れるよ」と言ってくれました。私は、その時弱音を言ってしまいました。それでも友達が応援してくれたので、帰って家でスタートダッシュや走っているときの姿勢などを聞きました。学校では、本気で走る時間もなく200メートルがどのくらいの距離かを確認したぐらいでした。

そして、本番。200メートル走の前の種目のとき私はとても緊張していました。足がとてもふるえていました。スタートをするラインの所に行ったとき、200メートル走の選手でもなく、同じ組でもない部活動の先輩が「がんばれ」って言ってくれました。それと3組の応援も聞こえ、絶対勝とうと思いました。スタートダッシュは少し遅れたけど、2人抜かして1位になれました。1位になれたのは色々な人が応援してくれたからだと思います。だから次は自分が応援しないといけないと思いました。

次に、400メートルリレーです。自分がでたかった種目なので一生懸命応援しました。一ヶ所のバトンパスなどのミスで女子は4位でした。私はリレーで走り終わった友達に「おつかれ、がんばってたよ」と言いました。でも、友達も私も悔しい気持ちでいっぱいでした。リレーに出ていない私もとっても悔しかったです。

最後に、応援です。一番はじめは、少し声が出しにくかったけど後からどんどん声を出して応援しました。思っていたより応援は楽しかったです。

私は、この体育会で色々な気持ちになりました。1位になれなくて最後も悔しい気持ちになりましたが、来年は悔しい思いをしないようにクラスの人たちとがんばりたいです。

また、10月は遥照登山や中間テストがあるので気持ちをきりかえてがんばります。

成長の過程を大切に

2年1組　名村　胡桃

負けず嫌いの私は、どんな行事でも1番がよかったし、優劣がなければ心の底から行事を楽しむことができなかった。3年生は「1位がとれなくても、練習の過程で楽しんだり、色々学んだりできたらいいと思う」と言っていたが、私は『1位をとった方が楽しいのに』と思っていた。

練習は大変だった。ダンスを覚えることが難しく、一人だけ先輩に教えてもらったこともあった。ダンスをみんなと踊ることができるようになり、楽しむことができた時の感動は忘れられないし、一生忘れないと思う。特に「ハピネス」は移動が多かったり、手をつないでリズムにのるところがあったりで大変だったが、最後にみんなで集まって歌いながら踊るところは、心から楽しむことができた。

本番では、自分自身が笑顔で、後輩も先輩もみんな笑顔で、体育会を見に来てくださった方々にも楽しんでもらえたのではないかと思う。

最初は「結果が全て」と考えていた体育会だったが、取り組みを通じて、結果までの過程が大事なのであって、いかに努力したか、楽しむことができたかで、優劣も変わってくるのだと知った。自分の中では、1組は1位にふさわしいと思っている。

これからは、成長の過程を大切にし、それによってお互いの仲を深めることのできる人になりたいと思う。そして体育会だけでなく、様々な行事や学校生活において、結果までの過程を通して学んだことを活かしていきたいと思う。

団長やチアリーダーは、「こんな自分たちについてきてくれてありがとうございました」と言っていたが、私は1組の団長とチアリーダー、そして3年生全員が同じ兄弟学級でよかったと思う。私も、そう思われるような3年生になりたい。

体育会を終えて

2年2組　小川　明郁

中学生になって2度目の体育会。最も私の心に残っているのは応援合戦とリ

レーだ。

応援合戦は、去年より練習期間が短い中、団長やチアリーダーを中心にたくさん練習した。屋内で練習する時は湿気がすごくて、暑さで汗まみれになりながら頑張った。本番直前に退場門で「頑張るぞー！」と言って円陣を組んだ。地面はぐちゃぐちゃだったが、練習もいっぱい頑張ったし、『今はもう、全力で汚れにいこう』と思った。本番中も、練習よりも大きな声を出して踊り、泥の中を全力で走った。途中で立ち位置がおかしくなった時も、あまり気にせずに笑顔で踊った。正直なところ、応援の部で1組に1位をとられたことがすごく悔しかった。でも、みんなで一生懸命頑張った結果、2位をとることができたのはとても嬉しかったし、このメンバーで取り組めたことが本当によかったと思う。

400メートルリレーでは、私はタイムの係だった。ゴール横に立って「2組いけー！」と応援したり、友達の名前を大声で叫んだりした。2年2組が1位でゴールした時、私は係仕事の途中であるにもかかわらず、泣きそうになった。3年女子の競争では、最初は4組がトップで、アンカーにバトンが渡ったのも4組が1位だった。だから、私は1位の生徒番号の欄に「L34」と書こうとした。すると、2組が上がってきて、4組を抜いてゴールした。一瞬の出来事で、本当にびっくりした。女子の1位の生徒番号が3学年とも、「L12」、「L22」、「L32」と2組で埋まった。それを見て、なんだかまた泣きそうになった。頑張って走っている選手をこんなに間近で見ることができて、すごく嬉しかった。

今思い返せば、今年の体育会はあっという間に終わったように感じる。どの種目も全力でやり遂げ、本当に楽しかった。来年は自分たちが団の中心となる。今年の3年の様に、後輩がついてきてくれるように頑張りたい。

チアリーダーとして学んだこと

3年3組　山野　莉奈

私が体育会で印象に深かったことは3つあります。

まず1つ目は応援合戦です。去年は副チアリーダーをさせてもらって今年はチアリーダーをさせてもらいました。チアリーダーを実感したのは100人以上の人をまとめるという難しさです。私は本当に難しくて去年4組のチアリーダーと団長だった高1の先輩方のすごさを改めて感じました。壁にぶつかることもありましたがちゃんと思っている事を正直に言ってくれる仲間がいて、親身になって励ましてくれる仲間がいて私はいろいろな人に支えられてるなって思うことができました。応援合戦では衣装をすごく頑張ってくれた人やダンスを一生懸命考えてくれた人や小道具をぎりぎりまで頑張ってくれた人や3組が全員色々な場面で頑張ってくれて私は本当に感謝しています。結果はどうであれ3組全員が色々な場面で努力することができた応援合戦だったので私は満足です。本当に3年

3組のみんなには感謝でしかないです。たった2週間という少ない期間でしたが本当に良い思い出です。

2つ目はマスゲームです。集団行動は初めてで始めは少し難しいところもありましたが中3全クラスで作り上げたマスゲームはすごく楽しかったです。

3つ目は長縄です。長縄だけ唯一1位をとった競技でした。みんなで協力して27回跳ぶことができました。本番でちゃんと跳べるか不安でしたがしっかり跳ぶことができて嬉しかったです。

中学最後の体育会は地面が悪い中だったけど最高の思い出になりました。義務教育修了式とゆずり葉の会まで半年もないですが勉強面でも生活面でも悔いの残らない中学校生活を送りたいです。

絆の大切さを学んだ

3年4組　長田　紘毅

「バクッ、バク」と僕の心が揺らぎ始めたのが体育会が始まる2週間前のことでした。今までで大丈夫かと思い始めていたころでした。中学校生活最後の体育会を必ず成功させるぞという思いが強かったからかもしれません。何か自分にできることがないかと探していました。その時、僕は応援を人一倍頑張ろうと思いました。そして必ず体育会を成功させるぞと思っていました。体育会の本番、自分が掲げた目標を胸に一生懸命のどが枯れるほど頑張りました。応援席で兄弟学級の生徒が出ると一所懸命応援しました。みんな泥まみれになりながらも4組のモットーである「笑顔が大事」を目標に走り、転び、笑い、と頑張ることが出来ました。閉会式が終わるにつれて僕は2つのことを実感しました。

まず1つ目は感謝の心を大切にすることです。体育会が始まり、多くの道具などが必要になります。それらは多くの人のおかげできることであり、決して1人ではできることではないので、感謝をするべきだと実感しました。その他にも、保護者の方がわざわざ雨の中体育会に来てくださったことにも感謝の心が大切だと実感しました。その他にも感謝しきれないほどのことがたくさんあります。このことから、次は僕自身が感謝をされる側に立ち、歩んで行こうかと思います。

2つ目は、絆が大切だということです。何かを達成しようとする時も1人ではできないことが多くあります。それを達成しようとすると仲間との絆が必要となってきます。人間誰しも1人では乗り越えられないことがあると思うけれど、それは決して不可能なことではなく、可能にすることができるということです。応援合戦の時、4組の絆が1つになったからこそ観客に良いパフォーマンスを見せることができたと思います。

今回の体育会では兄弟学級の部で2位になりました。これも4組の絆があって出来たものだと僕は強く思いました。

ほつま祭

やればできる

中1　5組　嶋本　季恩

初めての文化祭が終わりました。ぼくは文化祭の実行委員として1学期から参加しました。小学校の頃は、できれば何もしたくないしできれば自分の意見は言いたくないなと思い、過ごしていました。いざ仕事が始まると僕にできるかな、という不安もありました。

そしてクラスでの活動も始まりました。クラスでの展示の内容も初めはどうせ自分の意見を言ってもみんなに受け入れてもらえないのではないかと思い、何をしたらいいか、何をしたいか思いつきませんでした。だけど純粋に何をしたいかという提案書を出したとき、自分の意見が採用されていたことが本当にうれしくて、自分の意見を認めてもらえるんだと思い、自信がつきました。また、みんなと一緒に工場見学にも行き、貴重な経験もしました。そしていよいよ調べたことをまとめていく作業が始まりました。これもまた僕が苦手なことで、なかなかできませんでしたが、同じ班の友達が助けてくれました。

僕は何をやってもできない、という気持ちをずっと持っていたけれど、仲間と一緒に一つずつ助けてもらいながらも作業していく中で、気づいたらそんな気持ちはなくなっていました。むしろ、「自分も頑張ろう」という気持ちに変わっていました。文化祭の準備は正直大変だったけど、前日にクラス展示が完成したとき、本当に嬉しくて疲れも吹き飛びました。

文化祭当日、日曜日はいつも仕事に行っているお父さんも休みを取って、お母さん、妹、おばあちゃんと一緒に来てくれました。僕たちの展示を見に来てくれたお客さんが笑顔で帰ってくれるのがとても嬉しかったです。だから僕も自分の気持ちが伝わるように、大きな声であいさつをしました。

この文化祭を通して僕は、自分もやればできるという自信、人の役に立つことの大切さ、周りのみんなのやさしさ、協力すれば一人ではできないこともできるなど、たくさんのことを感じ学びました。だから僕にとって初めての文化祭はとても貴重な経験をした大切な時間でした。結果も中学展示の部優勝でとても嬉しかったです。

これからもまだまだ沢山の行事がありますが、僕はどんな行事も積極的に参加していきたいと思っています。

笑顔で接客

中2　5組　阿部　絵莉菜

私が今年のほつま祭を通して感じたことは、楽しさとみんなの団結力です。どのクラスもすごく工夫していて、みんなで協力して頑張れたのだと大きな感動を覚えました。私が特に素晴らしいと思ったクラスは中学1年5組です。案内してくれた生徒はとても親切で、文房具が作れる体験コーナーなど感心することばかりでした。文房具や募金を集めて、それらが不足している外国の子どもたちに送るという活動にはびっくりしました。1年5組の人たちの優しさがよく伝わりました。

私はクラスの準備を頑張りました。みんなが書いた模造紙を1枚1枚読んで、たくさんのクイズを作るという作業はとても大変でした。しかし、友達と協力して頑張ることで、早くクイズを完成させることができました。その結果、飾り付けの人たちを手伝うことができてよかったと思います。普段はにぎやかな2年5組ですが、ほつま祭の準備の時はみんな集中して頑張っていました。

ほつま祭当日は、たくさんの人が2年5組に来てくれました。接客している時にお客さんから「このクラスはよく調べとるなぁ」と言われた時は、とても嬉しい気持ちになりました。部活の展示でもクラスの展示でも一番心掛けたことは、「笑顔」と「接客する時の態度」です。大きな声を出すことが苦手な私にとって、接客することはとても緊張しましたが、何とかできました。私が目標にしていた「笑顔で接客」を達成することができ、ほつま祭が終わった瞬間、一気にホッとしました。片付けも準備の時と同じように頑張りました。早く片付けが終わったことにとても驚きました。たった2日しかない短いほつま祭は、私にとっての息抜きでした。毎日がほつま祭だったらいいのにと思いました。

結果は「優勝」できなくて、悔しくて残念だったけれど、来年の演劇では1位になれるように頑張りたいです。次に展示をする時は、今年1位となった1年5組を参考に頑張りたいと思います。

ほつま祭

中3　5組　藤田　恵

今年のほつま祭は今までで一番思い出深いものになりました。それは私が5組の演劇の監督になったからです。

劇を作っていく過程では本当にいろいろなことがあり、それに伴って自分もたくさん悩み、どうやって進めていくか考えました。

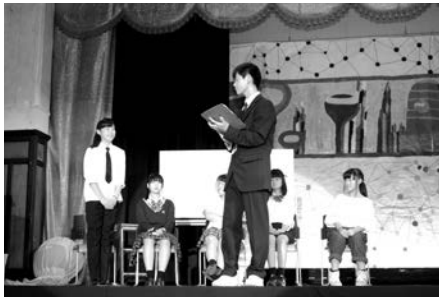
最初はみんなやる気があって協力してくれていたけれど、中頃になるとやはりだんだんだれてくるのが目に見えるようになってきて、私もどうしたらみんなのやる気を出してあげられるのか、やる気がなくなってしまったのは私のせいじゃないのか、などと考えてしまいがちでした。

しかし、助監督の増成さんや先生が妥協する

ことなく私の改善点を指摘してくれたり様々なアドバイスをくれたりと、たくさん助けてくれたおかげで、みんなを「自分たちが演じて楽しい劇」にもっていってあげられたのだと思います。

この頃からだんだん、自主的に練習を始めて、演技に対してみんなが前向きになってきたように感じられました。練習の時に、いない人の役をすすんでしてくれて、少々のミスも軽く流せるくらいの余裕がでてきていました。

本番直前、とんでもないハプニングが起きました。バックの絵の上にある電灯が突如割れたのです。しかし、みんなは演技に、そんなことがあったというのをおくびにも出さず演じてくれました。本当にすごいと思いました。練習のときは、「本当に大丈夫なのか」と思ってしまった人もしっかり頑張ってくれて、少々のミスもあったけれど、最高の劇を全員で作ることができたと思います。



今回、監督をして、人を動かすことの大変さを知りました。劇を通して、嫌なことも楽しいことも5組のみんなと共有できて良かったです。

物事を一生懸命することはとても楽しいことなのだ、と改めて思いました。

ほつま祭を終えて

高1　6組　森藤　由衣

私は1年6組のメンバーでほつま祭をやりきることができて本当によかったし、楽しかったです。今までにない達成感を味わうことができました。

私たちのクラスは7月の初め頃から準備や練習を始めました。今までにやったことのないミュージカルの「美女と野獣」をしました。30人近くが出る劇でキャストと大道具や小道具などを兼任しながら進めていくのはとても大変でした。友達同士で意見のくい違いや考え方の違いから何度もこの劇は成功しないのではないかと不安になりました。でも、そんな時はみんなが一人ひとりの意見を取り入れるように考え、少しずつ前に進んでいきました。今思えば、たくさん悩んでいろいろな意見を出し合っていったから最高の舞台になったのだと思います。そして本番当日を迎え、みんなの顔はとても緊張していて、無事に成功することだけを祈っていました。幕が開いて始まった瞬間、今までのことを思い出し、悔いのないように笑顔で楽しもうという気持ちに変わりました。そして劇は大成功に終わり、すごく嬉しかったです。結果は2位でしたが、それ以上の価値のあるものになったと思います。

ほつま祭を終えて、みんなと一緒に1つのものを作り上げることの大変さを感じました。しかし、悩んだ時は誰かが隣にいてくれることのありがたさ、1人ではないと思えるみんなの温かさを感じることができました。今回経験したことは私の中で最高の宝物になりました。この経験を生かしてこれからも頑張っていきたいです。

ほつま祭を終えて

高2　5組　幡山　颯大

今年のほつま祭は正直、初めはダメだと思っていました。みんなからやる気があまり感じられず、部活動などで集まりも悪く、展示か演劇かもなかなか決まらない状況でした。

どうにか演劇に決まり、台本も決まり、夏休みが明けましたが、練習はなかなか始まりませんでした。キャストではない僕でさえ、間に合うのかなと少し危機感を覚えるほどでした。さらに、重要な舞台稽古の日には、キャストが3人ほどしか来ませんでした。僕は音響で場面に合う曲を流す役目でしたが、CDの中には完璧にマッチする曲がなかったので、新しく探さないといけなくなりました。キャストや音響の状況をふまえると、絶対に間に合わないと思い、半ばあきらめていました。しかし、本番の4、5日前から次第にキャストの集まりが良くなり、みんな本気で練習し始めました。僕もキャストの人達が本気になったので、劇に合う曲を本気で探しました。それまでは適当に曲を流していればいいと考えていましたが、よくよく考えると学園生活最後の演劇ということに気付き、本気で取り組まなければと思いました。

そうして何だかんだで完成した2年5組の劇は、入賞こそしませんでしたが、完成前の状態と比較すると、素晴らしい完成度であり、とてもおもしろかったと思います。僕の中では、2年5組の劇が一番だと思えるくらい、最後はとても良いものになりました。

今まで経験してきたほつま祭は全てがクラスで自主的にするものではなかったので、今回のほつま祭で、改めて団結力や自主的に動く積極性や行動力の大切さを理解することができました。このことを忘れることなく、将来に生かしたいです。

生徒入賞作品

▼第62回青少年読書感想文 岡山県コンクール　自由図書

佳　作

「君の膵臓をたべたい」を読んで

高2　横山　美希

青く澄み渡る空の下、大きな桜と2人の男女が淡く描かれている。そのような背景には不釣り合いな『君の膵臓をたべたい』というタイトル。本屋で初めてこの本に出会った時、私は興味を引かれた。この本にはどんな物語が広がっているのだろう。移植手術の話なのだろうか、殺人事件のようなサスペンスなのか。頭の中で様々な想像が駆け巡る。ぜひ読んでみたいという衝動に駆られ、この本を手に取ることとなった。

主人公の僕と桜良との出会いは、ある日記がきっかけとなって始まる。ある日、主人公は病院で偶然「共病文庫」というタイトルの日記を見つける。開いてみると、私は膵臓癌でもうすぐ死んでしまうと書かれてあった。そして、その日記の持ち主が主人公のクラスメイト、山内桜良だと知る。彼女の秘密を知った主人公は桜良と多くの時間を過ごすようになっていく。この物語はこの辺りから展開していくこととなる。

私がこの物語を読んで素晴らしいと感じたのは、主人公と桜良のキャラクター設定だ。

作中で主人公が述べたように、この2人は対極的な立場に属している。膵臓癌という大病を抱えているが明るく前向きで天真爛漫な桜良。人との関わりを避け独特の滑稽さを醸し出す主人公。真反対に位置する二人が出会い、共に時間を過ごす中で考え方や関係が変わっていく。このように、お互いが欠けている部分を補いながら築いていく関係はとても素敵なものだ。これは日々の生活においても同じことが言える。毎日の学校生活で接するのは、必ずしも自分と気の合う友達ばかりではない。それを自分とは合わないから、と言って遠ざけるのではなく、「自分とは違う考えを知ってみよう」とする気持ちを持つことが大切だ。そうすれば、幅広く物事を考えることが出来、視野が広がってくる。それによって、相手のことを理解して相談に乗ったり、トラブルを回避したりすることが可能になると思う。思春期である私たちの心の形成に良い影響を与えることは間違いないと考える。

また、私が興味を抱いたのは、主人公の名前が物語の終盤まで出てこなかったことだ。作中では、主人公が桜良やクラスメイトに名前を呼ばれる時に〔秘密を知ってるクラスメイト〕くん、〔地味なクラスメイト〕くんなどと表記してある。これは、名前を呼んだ人が自分のことをどう思っているかを主人公が想像して当てはめたものだ。人名というのは、単に相手を呼ぶだけではなく、その人の存在を認識する為にあるのだと考えた。また、名前の呼び方は相手との関係性にも左右される。主人公は本好きで人との関わりが乏しい為、人間関係について客観的な視点で見つめることが出来るのだと思う。

では、なぜ物語の終盤に主人公の名前「志賀春樹」と表記したのか。それは、作中での桜良の言葉にヒントがあると思う。病室で主人公が、生きるとはどういうことかと桜良に尋ねたところ「誰かと心を通わせること」と返答している。主人公はこの言葉に感銘を受け、考え方を変えている。そして、一歩を踏み出し、他者と交流を持つようになった。先ほど述べたように、人名にはその人の存在を認識する役割が含まれている。今まで人との関わりを避けてきた主人公が心を通い合わせることで、自分の存在がきちんと確立出来るようになった。だから、終盤には自分の名前を明確に表記したのだと私は考える。

この物語で作者が一番伝えたかったことは、人との繋がりの大切さだと思う。作中で、自分の存在は誰か他の人が自分と関わりを持ってくれるから形成させると表記している。また、それが生きることでもあると桜良は述べていた。私もその通りだと思う。しかし、人との繋がりは決して心地よいことばかりではない。仲良くすれば、意見や考え方の違いから喧嘩になる。そんな時は煩わしいと感じるものだ。ただ、喧嘩をするのは必ずしも悪いこととは言い切れない。大切なのは、喧嘩をした時にお互いの意見を聞き合い受け入れてあげることだ。そうすれば、相手のことを深く知ることが出来るし、より心を成長させることに繋がるのではないかと思う。

「君の膵臓をたべたい」を通して、これからの生活で繋がりを大切に生きていきたい。

入賞おめでとう

▼第50回　中学生税の作文
中国納税貯蓄組合連合会会長賞　中3　平松　宏一

▼第38回　中学生税の習字
浅口市長賞　中1　的野　陽
玉島法人会会長賞　中3　中塚　萌々
玉島納税貯蓄組合連合会会長賞　中3　内村　彩乃

▼銃器根絶キャンペーン ポスターコンクール
優秀賞　高2　水川　大地

▼第36回全国中学生 人権作文コンテスト
優秀賞　中2　掛橋沙耶香
佳作　中2　山本　楓夏

▼第29回ライオンズクラブ 国際平和ポスターコンテスト
最優秀賞　中1　福武　莉奈
優秀賞　中1　小松原奈月
中1　山口　祐紀

▼平成28年度明るい選挙 啓発ポスターコンクール
特選　中2　笠原　麻由
入選　中2　梶谷　悠

▼平成28年度JA共済岡山県 小・中学生書道コンクール
佳作　中1　的野　陽
中1　赤沢　梨吏
中1　吉田　未来

▼雨活アイディアコンテスト2016
最優秀賞　中3　細井　里佳子

The second prize (Yushusho) in the Okayama Prefecture 21st English Essay Contest

Is there anything I can help you with?

高2　西川　華

Do you know the difference between barrier-free and universal design? The former means a service only for disabled people, and isn’t well-known in countries other than Japan. The latter means the thing which all people can easily use and a way service, and is known around the world. In Japan, “universal design” has come to be known with increasing globalization. In addition, we hear the phrase “universal manners,” which is derived from it more often. Universal manners are defined as being considerate of others and acting under the appropriate understanding.

For example, suppose that you see a person sitting in a wheelchair. What would you do? Some will say a simple greeting. Others will offer to push them, and still others may pretend not to see anything. However, none of these are correct universal manners. Why not? This is because what each person’s demands are different, even if everyone sits in a wheelchair in the same way. There are disabled people requiring help, while other disabled people don’t need help because they want to work for themselves by themselves. Therefore, helping them with only our thoughts can’t be said to be universal manners.

When you meet people having difficulty such as disabled and elderly people, you should ask “Is there anything I can help you with?” This is a magic phrase which I learned from disabled people. In fact, it seems to be easy for them to answer without hiding their true thoughts, but I hear that there are few people who say this to them.

In the past, I didn’t know what I should do for disabled people either. “Should I say something to them?” “Should I help them?” I wondered to myself again and again. I became negative because I couldn’t completely help them. In contrast, I can cope in any situation now because I learned the magic phrase.

I think that asking “Is there anything I can help you with?” isn’t only for disabled people, but also connects anybody having trouble, wherever they are from. If a person was connected to another, we could get happy. On the other hand, it is worrisome that the number of disabled and elderly people will increase as our low birthrate and aging progress. In this case, we will often come to see people with mobility impairment around town. I think that it is important for us to compromise with them, and to face each other in such a case. We don’t have to be at a loss. At first, please ask them, “Is there anything I can help you with?” Many smiles will surely arise and spread from this.

（本人の原稿をそのまま掲載しています）

The second prize (Yushusho) in the Okayama Prefecture 11th English Letter Contest

To: Rosa Parks
From: Ayaka Matsumae

高1　松前　彩華

Break the Barrier. This is a chapter title of an English textbook I read. Here you are introduced as a famous woman in the United States. You turned a new page in our history. Small things made big things happen.

You got on a bus in Montgomery on your way home. You sat in a seat for black people. But blacks were treated unfairly those days, and a driver could reserve more seats for whites to make room for them. How did you feel when the bus was getting crowded?

As might have been expected, the driver told you and other black people to stand up so that white passengers could sit. Some of them gave up their seats, but you refused it with the strong belief that you didn’t have to stand up at all. Unfortunately, you were arrested according to a law at that time. Although a bad law was still a law, who was right?

However, some people didn’t ignore your action. They boycotted boarding the city buses and walked a long distance in protest against the inequality. The movement spread all over the United States and involved the rest of the countries, enlightening the entire world. Do you think that we all have already been equally given our own seats in today’s world?

I have a dream. I would like all the discrimination to disappear from the earth, but we have a long way to go. When we have trouble accepting other people who have different physical characteristics, speak different languages, and have different patterns of behavior, we tend to build an invisible barrier that segregates us from them. Then what can we do to find our way to the ideal destination? You told me the answer.

I won’t give up just as you didn’t. I am going to break the barriers and make the world an open place. I am sure that we can do it because you showed us it is possible.

（本人の原稿をそのまま掲載しています）

生徒会活動

ほつま祭　9月10・11日の2日間、統一テーマ「咲（えみ）～笑顔を咲かせよう～」を掲げて、日ごろの成果を発表した。文化部・同好会14団体と高2美術選択者が展示部門に、ダンス部、音楽部吹奏楽団、コーラス、軽音楽部が演劇部門で日ごろの成果を発揮した。また、中高各クラスは展示17団体、演技11団体が発表を行った。高3有志の模擬店では生徒が生き生きと活動し、今年も大盛況であった。やつなみ保護者会はステンドグラスの展示、体験が行われた。また、今年も友愛セールや模擬店が盛況であった。テーマにふさわしい、各クラスの個性が発揮された取り組みとなった。

　ほつま祭期間中には「一日入学ＰＡＲＴⅡ」として、小学生を対象にスタンプラリーが行われ、併せて入試相談コーナーも設けられた。

　なお、コンテストの結果は次のとおりである。

中学展示の部

第1位	1年5組	文具の果てまで
第2位	1年2組	イッテQ 楽しい！不思議！ ストローワールドへ Let's go!
第3位	2年2組	Welcome to 泡 class 2016
	1年1組	紙パックは神パック？ ～紙ｉｎｇパック ワールド～
	1年4組	「島」ですよ～。全員 集合!!

中学演技の部

第1位	3年1組	ミッションE
第2位	3年3組	グッド　バイ　マイ
第3位	3年4組	白雪姫？ ～You can fly～

高校展示の部

第1位	1年4組	国境を越えて Live Love Laugh ～世界は一つ～
第2位	1年1組	Ice in Wonderland!!
第3位	2年7組	ソルト＆ソルト ～「塩」の世界へ～

高校演技の部

第1位	2年2組	五つ目の願い事
第2位	2年6組	アリス・イン・ワンダフルランド
	1年6組	美女と野獣

ＫＯＰの部

第1位	今年こそ自己満で終わらない子羊戦士デスムーン　シャーコラ	

《中学生徒会》　8月1日に浅口支部生徒会交流会が本校で開かれた。今年度は、各校の自校紹介をし、各校の生徒会活動についてグループで話しあうなどして、交流を深めた。ほつま祭では、演劇部門には3年全5クラス、展示部門には2年全5クラスと1年全5クラスが参加した。展示は、夏休み中に様々なところに取材に行くなど内容の濃い展示となった。演劇では各クラスの熱演が見られた。

　体育会は10月1日に開催された。雨のため、一時中断や綱引きができないなどあったが、生徒が臨機応変に対応し素晴らしい体育会となった。ほつま祭以後、2週間程度の取り組みの中、3年を中心に兄弟学級が団結した素晴らしい応援合戦を展開した。中3によるマスゲーム（集団行動）は学年の団結を感じさせた。学年の部第1位は1年2組と4組、2年4組、3年2組、兄弟学級の部第1位は2組、応援の部第1位は1組であった。

　9年目となった『リレークリーン作戦』も1学期より行っている。「日頃お世話になっている町内やＪＲ金光駅等に対し、お礼（感謝）の気持ちを清掃という形で表す」「登下校のマナーについて考える機会とし、学園の仲間が毎日清掃することによってゴミをしない、迷惑をかけないという意識を各々に育てる」が目的で、クラス、部、生徒会事務局が各単位でチームを作り、試験中を除き1日おきに連続して金光駅から学園までの主に通学路を中心に清掃活動している。町内の方にも温かい言葉をかけていただき、どのチームも一生懸命取り組んでいる。

　各委員会の動きとしては、評議員会はマナー問題に取り組んだ。特に町内の方からの苦情が出ないようにするため、生徒全員が問題意識を共有できるように、全クラスで話し合いをし、具体的に取り組み実行できる内容を話し合った。

《高校生徒会》

体育会　雨天順延のため、9月23日（金）に開催された。開会式中に雨が降り、グラウンド状態はベストではなかったが、すべてのプログラムを実施することができた。様々な競技で熱戦が繰り広げられ、青ブロック（2年2・4・6組）が優勝、赤ブロック（3年1・3・5・6組）が第2位、黄ブロック（2年1・3・5・7組）が第3位となった。

秋季球技大会　10月20日（木）、爽やかな秋晴れの空の下、1年生・2年生で実施した。ソフトボール、ティーボール、フットサル、ドッジボールの4種目が行われ、1年生は6組が、2年生は2組が優勝した。

《新聞部》　10月の体育会では、応援合戦の様子や競技結果をまとめた中学ほつま新聞を発行した。現在ほつま新聞の3月号発行に向けて、中学生部員を中心に様々な部活動への取材活動を行っている。

《天文部》　8月、さつきっ子科学教室では、手作り望遠鏡の作製、夏の星座や惑星の観望などを行った。また、夏合宿を弥高山で実施し、ペルセウス座流星群の観測や写真撮影を行った。

　9月、ほつま祭では、例年のように、展示・プラネタリウム・天文台公開を実施した。

　11月、倉敷科学センターで行われた科学の祭典に参加し、光のスペクトルについてブースを出し、来場者に簡易分光器の作製や様々な光のスペクトルの観察を体験させることができた。

《茶道部》　ほつま祭での今年のテーマは、良寛さまが亡くなって150年ということで、「没150年　良寛さまの生き方を学ぶ」とした。生徒は緊張しながらも、日ごろの練習の成果を発揮した。天候にも恵まれ、多くの方々に来ていただいた。

《中・高書道部》　第17回高校生国際美術展書道の部において高3藤井基輔が奨励賞を受賞した。四国大学第45回全国高校書道展において高2中塚心愛、高1坂口小枝、塚本瑠菜が準特選を受賞した。第33回ふれあい書道展において、高2中塚心愛、高1坂口小枝、塚本瑠菜、中2大野未貴が特選を受賞した。第51回高野山競書大会において高2中塚心愛が書道協会賞、高1坂口小枝が特選、高2長田麻依が準特選、高2富田瑞貴、中2大野未貴が金賞を受賞した。第25回国際高校生選抜書展において高3藤井基輔が入選を受賞した。第84回全国書画展覧会におい

て中1赤沢梨吏が広島県教育委員会賞、中2大野未貴が特選を受賞した。ほつま祭において書道部展覧会を実施し、第14回全国学生比叡山競書大会にも出品した。

《音楽部吹奏楽団》 7月16日（土）金光教本部境内にて行われた子どもの集いでは「UP TOWN FUNK!」「新童謡オープニング」「夏色」を演奏した。7月18日（日）浅口音楽フェスティバルにて「夏は来ぬ」「Part of your world」「海の声」「翼をください」を演奏した。7月28日（木）岡山市で行われた全国高等学校総合体育大会総合開会式に参加し、演奏した。7月31日（日）なんしょん浅口にて「GUTS!!」「365日の紙飛行機」「UP TOWN FUNK!」「夏色」を演奏した。8月4日（木）平成28年度全国高等学校総合体育大会ウエイトリフティング競技大会開会式にて「海の声」「夏色」8月8日（月）の閉会式にて「得賞歌」を演奏した。8月21日（日）に部内アンサンブルコンテストを行った。8月27日（土）同心幼稚園にて、「同心幼稚園歌」「GUTS!!」「海の声」「烈車戦隊トッキュウジャー」「夏色」「夢をかなえてドラえもん」「翼をください」「宝島」「新童謡オープニング」「キャンディーズコレクション」を演奏した。9月11日（日）ほつま祭にて、「ユーミンポートレート」「ソーランファンク」「KONKO」を演奏した。10月1日（土）中学体育会にて「海兵隊」「金光学園歌」「ファンファーレ」「PROMOTION」を演奏した。

《音楽部コーラス》 7月9日（土）午前中、金光町の少年少女合唱団「ひまわり」の小学生との交流会を中学生の部員とで行った。7月14日（木）に作曲家の北川昇先生をお呼びして、本年度の委嘱曲「はじまりの春」の指導をしていただいた。7月23日（土）に町内の福永夏祭りによんでいただき、オープニングの演奏をさせて頂いた。7月29日（金）～31日（日）で夏合宿を行った。2日目の夕方は恒例の保護者会によるバーベキューが行われ、家族も含め120人をこえる賑やかなものとなった。3日目はホール練習を行い、サマーコンサートへの準備を整えた。

8月2日（火）に高校生は全国高等学校総合文化祭の交流会に参加。全国の高校生とクイズや手紙の交換をして交流。また、各団体2名の代表者によるドリーム合唱団の演奏や佐藤賢太郎氏による「前へ」の指導もあった。中学生は全国大会常連校である安田女子中学校の合唱部を訪問し、練習見学及び合同練習をした。8月3日（水）に廿日市文化ホールで全国高等学校総合文化祭合唱部門が開催された。本校は初演となる「はじまりの春」と「俵積み唄」を演奏した。8月7日（日）に玉島文化センター大ホールにおいてサマーコンサート'16を開催した。第1ステージは「366日～特別な日～」をテーマに、カラーガードでオープニングを飾り、中高男女混声と様々なバージョンで歌った。第2ステージはOBOG合同ステージで松下耕氏編曲の民謡3曲と北川昇氏にお願いした本年度委嘱曲「はじまりの春」を演奏した。第3ステージは企画ステージで劇やダンス、チアリーディングなどを加え、客席と共に楽しむことができた。8月27日（土）に金光学園こども園の夏祭りに呼んでいただき、オープニングの演奏を行った。一緒に手遊びなどもして楽しいひと時を過ごした後、お店の手伝いを部員がして交流もできた。9月11日（日）ほつま祭2日目に出演。チアリーディングを再演し、新たにメドレーを加えたステージとした。10月30日（日）にマービーふれあいセンターで開催された岡山県芸術フェスティバルに出演。「北海道物語」と「前へ」を演奏した。老人ホームでの訪問演奏を11月5日（土）に幸楽園、6日（日）にグループホームなごみでそれぞれ行った。懐メロを中心に歌い、手遊びなどで交流を深めることができた。

《文芸部》 7月28日（木）から2泊3日で校内合宿を行った。親睦を深めつつ、作品執筆に没頭し2冊の習作集を制作、批評会を行うことで技術の向上に努めた。ほつま祭では文芸誌「榾柮火」を販売し、無事に完売した。11月12日（土）には高文連文芸部会主催の「高校生文芸道場中国ブロック大会（岡山大会）」に8名が参加した。作家・原田マハの講演に刺激を受け、散文分科会では他校の生徒と交流を深めながら創作の要諦を学んだ。また同会に先立たって実施されたコンクールの散文部門に8名が作品を応募し、高3山口璃菜「カコちゃん」が優秀賞を受賞、同じく高3金田実沙紀「天高く」、岸本桃「早春の歌」、細川典子「金曜日の居場所」がそれぞれ入選となった。中国大会散文部門で表彰される全6名に、本校から4名が選出される健闘ぶりであった。校内では月ごとにテーマを設けて作品を執筆。月例集にまとめ、批評会を行うことで互いに研鑽している。

《写真部》 8月18日～19日に行われた倉敷フォトミュラル関連企画「PHOTO STADIUM」に6名が参加。応募した作品のうち、高2中田美菜子の作品が佳作に選ばれた。ほつま祭では、「日常」をテーマに部員それぞれの個性溢れる作品を展示し、好評を得た。

《中放送部》 ほつま祭・体育会では音響やアナウンスなどを部員全員で協力して行った。

《高放送部》 9月に行われたほつま祭や体育会で放送を務め、臨場感あふれるアナウンスで、会場の雰囲気を盛り上げた。また、11月26日に行われた第40回岡山県高等学校総合文化祭放送文化部門発表会兼第40回岡山県高等学校秋季放送コンテストで、高2横山美希と高1岡本圭織が朗読部門で出場。岡本圭織が、3位に入賞し、中国大会への切符を手にした。

《囲碁将棋部》 10月1日（土）に山陽新聞社で開催された高等学校秋季将棋新人大会において、高2の原田理司が4勝1敗で準優勝。見事、全国大会（来年2月3～5日）・中国大会（12月17、18日）への出場を決めた。また、高2の有冨太智も健闘しレベルの高いAグループで1勝あげた。

《軽音楽部》 ほつま祭で5バンド15名が演奏を行い、練習した成果を存分に発揮した。

《中・高美術部》 中学校は12月にある第21回岡山県生徒作品・表現活動発表会にモビールを出品するために、制作を部員4人のメンバーで頑張っている。

高校は高3山本佳歩さんの作品が高校生芸術フェスティバル2016・第40回岡山県高等学校総合文化祭（倉敷マービーふれあいセンター）に選ばれ展示された。

《中陸上競技部》 岡山県秋季記録会において、仁平優宙は走幅跳で4位。400mで谷本きなりが4位。

岡山県中学校秋季大会において、西森翔眞が5位。谷本きなりが100mで6位、200mで8位に入賞した。

《高陸上競技部》

全国大会

『全国高校総合体育大会』に眞田剛寛が400m・眞田明日香が砲丸投げに出場した。

『全国高等学校選抜大会』に眞田剛寛が300mに出場した。

中国大会

『中国高校陸上競技大会』において、眞田剛寛が400mで3位・眞田明日香が砲丸投げで2位に入賞した。

『中国新人陸上』において、眞田明日香が砲丸投げで1位。110mハードルで5位。塚本航平・乾俊介・大原健太郎・山下朋紀が400mリレーで7位に入賞した。

『中国5県陸上競技大会』で眞田明日香が砲丸投げで6位。上川滉太・清水美沙が5000m競歩。三宅悠希が400mハードルに出場した。

県大会

『高校陸上競技選手権』において、眞田明日香が砲丸投げで1位。三宅悠希が400mハードルで3位、400mで8位。山下朋世紀が110mハードルで4位。400mリレーで塚本航平・乾俊介・大原健太郎・山下朋紀が4位、1600mリレーが7位。大島徹也がやり投げで8位に入賞した。

『高校新人陸上大会』において、眞田明日香が砲丸投げで優勝。400mで乾俊介が4位（400mハードルは5位）、塚本航平が6位。山下朋世紀が110mハードルで3位。上川滉太が5000m競歩で4位。400mリレー・1600mリレーで塚本航平・乾俊介・大原健太郎・山下朋紀が3位。谷野光琉は走幅跳で5位。やり投げで大島徹也が7位・山下朋紀が8位。清水美沙が5000m競歩で2位。眞田明日香が砲丸投げで2位、ハンマー投げで5位。三宅悠希が400mハードルで5位、400mで7位に入賞した。

《ラグビー部》 7月24日（日）に高体連夏季強化練習会に参加。新チームとして初めての試合を経験した。7月28日（木）～31日（日）には高3福島拓紀・原田雄矢が長野県で行われた全国高等学校合同ラグビーフットボール大会にU18中国選抜として参加した。8月19日（金）～21日（日）には校内合宿を実施。多くの卒業生や外部コーチの参加を得て、充実した合宿となった。9月9日（金）～11日（日）には高1中斐准輝がU16中国ブロックトレセンにU16岡山選抜として参加した。9月19日（月）には岡山県高等学校ラグビー選手権大会に岡山城東との合同チームで参加。1回戦で玉島に0―78で敗れた。10月30日（日）には全国高等学校ラグビーフットボール大会岡山県予選会に同様の合同チームで参加。高松農業に7―43で敗れた。

《中男子ソフトテニス部》 7月9・10日に井原運動公園テニスコートで行われた備南西地区総体では、個人戦に6ペアが出場し、竹内・倉田ペアがベスト4、吉田・小田原泰ペアがベスト10で県大会の出場権を獲得。団体戦では予選リーグで笠岡西中学校に3―0で勝利、新吉中学校に2―1で勝利し、決勝トーナメントで大島中学校に2―1で勝利した。決勝戦では鴨方中学校に1―2で敗退したが、準優勝で県大会出場を決めた。7月23日に浦安総合公園テニスコートで行われた県総体個人戦では、竹内・倉田、吉田・小田原泰ペアが1回戦敗退。団体戦では高梁中学校に中塚・五藤ペアが勝利するも、1―2で初戦敗退であった。7月30日に笠岡総合スポーツ公園テニスコートで行われたチャレンジカップでは、20ペアが出場し、I部で吉田・小田原泰ペアがベスト4、竹内・倉田、佐藤・五藤ペアがベスト8、II部で利根・中村ペアがベスト8であった。10月15・16日に井原運動公園テニスコートで行われた備南西地区秋季総体では、個人戦に6ペアが出場し、

畑地・小田原克、岡田・岡﨑ペアがベスト8で県大会出場権を獲得。団体戦では予選リーグで笠岡西中学校に3―0で勝利し、里庄中学校に2―1で勝利したが、決勝トーナメントで新吉中学校に1―2で敗れた。続く代表決定戦では小北中学校に2―1で勝利し、3位で県大会出場を決めた。11月6・7日に福田公園テニスコートで行われた県秋季大会では、個人戦で岡田・岡﨑ペアが初戦敗退、畑地・小田原克ペアが2回戦敗退。団体戦では大原中学校に小野・石丸ペアが勝利するも、1―2で初戦敗退であった。なお、畑地・小田原克ペアは、備南西地区代表として、11月20日・23日に行われる県中学生ジュニア強化研修会に参加した。

《中女子ソフトテニス部》 7月9・10日に井原運動公園テニスコートで行われた、夏季備南西地区総体では、個人戦に6ペアが出場し、津田・安部が準優勝で県大会の出場権を獲得。団体戦では予選トーナメント1回戦で井原中学校に2―1で、同2回戦で小北中学校に3―0で勝利したが、準決勝で金光中学校に1―2、続く代表決定戦でも鴨方中学校に1―2敗れ、県大会出場はならなかった。7月23日に浦安総合公園テニスコートで行われた、県大会（個人戦）では津田・安部が1回戦敗退。10月15・16日に井原運動公園テニスコートで行われた、秋季備南西地区総体では、個人戦に6ペアが出場し、淺原・八重本ペアがベスト8で県大会出場権を獲得。団体戦では予選トーナメント1回戦で金光中学校に3―0で勝利したが、同2回戦で矢掛中学校に0―3で敗れ、県大会出場はならなかった。11月6日に福田公園テニスコートで行われた県大会では、個人戦で淺原・八重本ペアが2回戦敗退。なお、淺原・八重本ペアは、備南西地区代表として、11月20日・23日に行われる県中学生ジュニア強化研修会に参加した。

《高女子ソフトテニス部》 5月、全日本・中国高等学校ソフトテニス選手権大会（個人）備西地区予選会で、西山・向ペアと畠山優・畠山佳ペアがベスト8になり、6月に同岡山県予選会に出場した。西山・向ペアはインターハイ出場をかけて、ベスト32まで勝ち進んだが、代表決定戦で涙をのんだ。

8月、第57回高梁川流域高等学校ソフトテニス大会（個人）に、西山・向ペア、畠山優・畠山佳ペアが出場。第45回高梁川流域高等学校対抗ソフトテニス大会（団体）に出場した。

9月、岡山県高等学校新人ソフトテニス大会（ダブルス）備西地区予選会で、畠山優・畠山佳ペアが準優勝、塚岡・向ペアがベスト8になり、県大会への出場権を得た。

10月、岡山県高等学校新人ソフトテニス大会（ダブルス）に2ペアが出場、塚岡・向ペアがベスト32となり、県選抜インドア大会出場をかけての代表決定戦に臨んで、見事勝利を収め、12月に岡山県総合グラウンド体育館（ジップアリーナ）で行われる第46回岡山県高等学校インドア選手権大会に出場権を獲得した。

11月、岡山県高等学校新人ソフトテニス大会（団体）では、2回戦敗退であった。

《中卓球部》 7月9、10日に備南西地区総体に出場した。男子団体では準優勝し、県大会出場を決めた。男子個人では中3山形がベスト4、中3原田と中3湯原がベスト16に入り、県大会出場を決めた。女子個人では中3東がベスト8に入り県大会出場を決めた。

7月21、22日に岡山県総体に出場した。

男子団体では2回戦で美作に3―2で勝ち、3回戦で東陽に2―3で敗れ、ベスト16であった。男子個人では山形と湯原が2回戦へ進出、原田は1回戦敗退であった。女子個人では東が1回戦敗退であった。

9月17、18日に備西支部秋季合同練習会に出場した。男子団体では優勝した。男子個人では中2山本がベスト4、中2板垣と中2佐能がベスト16に入った。

9月22日に全日本予選（ジュニアの部）に参加した。男子個人では原田と山形が3回戦に進出した。

10月15、16日に備南西地区秋季大会に出場した。男子団体では3位に入賞し県大会出場を決めた。男子個人ではベスト16に山本が入り、県大会出場を決めた。

11月6、7日に岡山県秋季大会に出場した。男子団体では予選リーグで京山に0―3で敗れ、加賀に3―0で勝ち、玉島西に0―3で敗れた。男子個人では山本が1回戦で敗退した。

《高卓球部》 7月16日に国体予選（少年の部）に参加した。男子個人ではU1升本がベスト64に入った。女子個人ではU2内山とU2藤澤がベスト32、U2中務とU2東がベスト64に入った。

8月9日に倉敷市長杯争奪卓球大会に参加した。男子団体では予選リーグで総社に3―1、倉敷翠松に3―0で勝ち、決勝トーナメント準々決勝で笠岡に3―2で勝ち、準決勝で倉敷工業Bに1―3で敗れたが、ベスト4に入賞した。女子団体では予選リーグで笠岡に3―0、倉敷中央に3―0、倉敷青陵に3―1で勝ち、決勝トーナメント準々決勝で玉島商業に3―0、準決勝で新見に3―1、決勝で倉敷青陵に3―0で勝ち、4年連続で優勝した。男子個人ではベスト16にU2唐川と升本が入った。女子個人ではベスト4に中務、ベスト8に内山と東と藤澤、ベスト16にU2西原が入った。

8月17～19日に西日本オープン高校大会（坂出市）に参加した。男子団体では予選リーグで観音寺中央に3―1、高松中央Bに3―0、帝塚山Aに3―0、小倉西に0―3での結果予選2位で2位リーグに進み、高松西に0―3、松山商業Bに3―1、鳥取敬愛Aに0―3、尽誠学園Bに2―3、伊予農業に3―2、多度津に3―0、平城Aに3―1、高松工芸Aに3―2の結果7位であった。女子団体では予選リーグで観音寺中央に3―0、一条に3―0、合同Dに2―3、徳島市立Aに3―2の結果予選2位で2位リーグに進み、高松中央Aに3―2、合同Aに3―0、高松商業に3―2、早鞆に3―1、尽誠学園に2―3、徳島商業に0―3、城南に1―3の結果3位であった。

8月24日に岡山県夏季卓球大会に出場した。1年生男子シングルスではU1古賀と升本がベスト16に入った。2年生男子シングルスでは唐川がベスト32に入った。2年生女子シングルスでは藤澤がベスト8、内山と中務とがベスト16、西原がベスト32に入った。

9月22日に全日本予選（ジュニアの部）に参加した。男子個人では升本がベスト32に入った。女子個人では内山と西原と藤澤がベスト64に入った。

10月30日と11月3日に岡山県秋季卓球大会に出場した。男子団体では予選リーグでおかやま山陽に3―0、笠岡工業に3―1、笠岡に3―0で勝ち、決勝トーナメント2回戦で倉敷翠松に3―0で勝ち、3回戦で岡山芳泉に0―3で敗れベスト16であった。女子団体では予選リーグで倉敷中央に3―0、岡山白陵に3―0、津山に3―0で勝ち、決勝トーナメント2回戦で岡山後楽館に3―0で勝ち、3回戦で総社南に3―0で勝ち、準々決勝で岡山芳泉に3―2で勝ち、準決勝で就実に0―3で敗れたが、3位決定戦で岡山東商業に3―2で勝ち、3位入賞であった。

《高サッカー部》 高円宮杯U―18サッカーリーグ2016OKAYAMAチャレンジリーグの第3節からは、新チームで挑むこととなった。7月9日、対岡山城東（1―0）。16日、対岡山工業B（0―0）。18日、対倉敷（0―1）。練習試合を次のように行った。7月27日、対大阪学院（0―1）、対帝京大可児（0―3）。トップチームとの対戦ではなかったが、県外の強豪相手にいい経験をさせてもらった。7月29日、対おかやま山陽（0―3）・（2―2）・（1―2）、8月2日、対笠岡（2―2）、対高梁（3―2）、対笠岡（1―2）。8月3日、対倉敷南（4―7）。以下はIPUフェスティバルの結果である。8月9日、対金光藤蔭（0―4）、対米子北B（0―5）。8月10日、対芳泉（0―2）、対彦根工業（0―3）。U16サッカーリーグの結果は次のとおりである。8月20日、対笠岡（3―0）、対翠松（0―2）。8月21日、対大安寺（3―2）、対津山（0―0）。岡山県高校サッカー選手権大会一次トーナメントの1回戦は対津山商業（5―0）、2回戦は対関西（1―3）。高円宮杯U―18サッカーリーグ2016OKAYAMAチャレンジリーグ（後期）途中経過は以下のような結果となっている。9月4日、対白陵（7―0）、9月22日、対高梁（4―0）。11月6日、対玉島商業（3―0）。

11月12日、練習試合を行った。対倉敷南A（60分）（1―1）、対玉島商業（20分）（2―0）、対倉敷南B（20分）（3―2）。高円宮杯U―18サッカーリーグ2016OKAYAMAチャレンジリーグ（後期の続き）は以下のような結果となっている。11月13日、対大安寺（2―0）。11月20日、対津山商業（4―0）。11月23日、対美作（8―0）。今回のリーグ戦は、無失点で全勝した。

《中柔道部》 7月9日に里庄武道館で、地区大会が行われ、男子団体戦は6チームが出場する中で、女子団体戦は2チームが出場する中でともに優勝した。

7月24・25日に岡山武道館で、県総体が行われ、男子団体戦は岡山白陵中に、女子団体戦は桜が丘中にそれぞれ1回戦で敗れた。男子個人81kg級で中3森永慶之が第3位に入賞。また女子個人戦で中3宮口史織・宮口史穂がそれぞれベスト8となった。

10月15日に里庄武道館で、地区大会が行われ、男子団体戦は2位となった。

11月6・7日に岡山武道館で、秋季県大会が行われ、男子団体戦は岡山白陵中に1回戦で敗れた。男子個人戦では中2浦上伊織が55kg級で、中1趙壮済が73kg級でそれぞれベスト8となった。

《高柔道部》 6月に本校柔道場で、高3江草ひな子の引退に伴い、江草が後輩たちへ技の講習を行った。後輩たちは熱心に技量の向上に努めていた。

11月4・5日に岡山武道館で、新人大会が行われ、男子団体戦は1回戦で一宮に勝ったものの、2回戦で倉敷工業に敗れ、敗者復活戦で東商業に敗れた。男子個人戦では高2戸田勝己が60kg級で第3位に入賞した。

高1虫明春哉・橋髙光哉・十倉拓哉はそれぞれ1回戦敗退であった。

《中・高柔道部》 8月1日から4日までの3泊4日で、本校柔道場において合宿を行った。多くの保護者の方やOB、他校の先生や選手が集まって下さり、無事に行うことができた。3日には恒例のBBQを保護者・OBの協力のもと実施できた。大変お世話になり、ありがとうございました。

《中剣道部》 〈段級審査会〉7月3日（日）邑久B&G海洋センター体育館で開催され、佐伯優真（3年）が二段に合格した。

〈備南西地区大会〉7月9日（土）笠岡総合体育館サブアリーナで開催され、男子個人試合で亀山裕汰（2年）が1回戦敗退。市川真広（3年）が3回戦敗退でベスト8。佐伯が第3位、新谷理駆（2年）が第2位。男子団体試合は第2位となる。結果、団体と個人（市川、佐伯、新谷）で県大会出場権を得た。

〈岡山県段別大会〉7月18日（月）海の日に岡山武道館で開催され、初段の部で、市川が2回戦、新谷が3回戦敗退。佐伯が5回戦敗退でベスト16となる。

〈県総体〉7月21日（木）～22日（金）宮本武蔵顕彰武蔵武道館で開催され、男子団体試合は玉島北中学に1対3で敗れる。個人試合は市川が1回戦、新谷が2回戦敗退。佐伯が4回戦敗退でベスト16であった。

〈浅口市剣道大会〉8月21日（日）天草公園体育館で開催され、団体試合は玉島北中学に0対5で負ける。個人は岡本、新谷が1回戦敗退。市川が3回戦敗退でベスト8であった。

〈備南西地区秋季大会〉10月15日（土）笠岡総合体育館サブアリーナで開催され、男子個人試合で亀山が2回戦敗退。新谷がすべて二本勝ちで見事優勝し、県大会の出場権を得る。

〈県秋季大会〉11月6日（日）～7日（月）笠岡総合体育館で開催され、開会式では、新谷理駆が参加選手を代表し、選手宣誓の大役を務めた。新谷は2回戦敗退であった。

《高剣道部》 〈岡山県段別大会〉7月18日（月）海の日に岡山武道館で開催され、二段の部で、日名啓介（1年）、池田弦輝（1年）が1回戦敗退。石原湧大（1年）が3回戦敗退であった。

〈県新人大会〉11月5日（土）～6日（日）津山東体育館で開催され、日名が1回戦、石原が2回戦敗退。男子団体試合は2回戦で古城池高校に1対4で敗れた。

《中女子バスケットボール部》 7月9日（土）10日（日）に里庄中学校体育館で行われた備南西地区大会では、準決勝、金光学園中58―18鴨方中に勝利し、決勝では、金光学園中55―28笠岡東中となり、笠岡東中に勝利し、優勝する事ができ、県大会に出場することができた。

8月20日（水）に岡山市総合文化体育館で行われた第54回岡山県中学校総合体育大会では、1回戦、倉敷南中学校と対戦。結果、金光学園中32―62倉敷南中となり、1回戦敗退。

9月18日（日）に笠岡市民体育センターで行われた備西支部シード決め大会では、1回戦金光学園中35―15で里庄中に勝利。準決勝では、金光学園中42―14矢掛中に勝利し、決勝進出。決勝戦では、金光学園中21―29で笠岡東中に敗れ、シード権を取ることができなかった。

10月9日（日）明石市立大久保中学校で行われたKOBE COSMO CUPに参加。〈4チームリーグ〉天理中学校（奈良）30―15金光学園中、明石市立大久保中35―15金光学園中、柏原中学校（兵庫）25―19 金光学園中で結果、4位となり

7・8リーグへ。7・8位リーグでは、園部中学校（京都）33―24金光学園中、明石市立舞子中27―26金光学園中という結果に終わった。

10月15日（土）16日（日）天草運動公園体育館で行われた備南西地区大会では、1回戦、里庄中33―76金光学園中、準決勝では、鴨方中11―87金光学園中で勝利した。決勝戦では、笠岡東中44―55金光学園中で、優勝し、県大会出場を果たすことができた。

11月6日（日）みまさかアリーナで行われた岡山県中学校秋季体育大会では、1回戦、津山市立北陵中学校と対戦。金光学園中30―39北陵中となり、1回戦敗退。

《中男子バレーボール部》
平成28年度後半の戦績
新チームとして9月の支部大会では優勝。10月の地区大会でも優勝。県大会でも優勝。この優勝は3年ぶり5回目。この結果、2月に山口県で行われる中国新人大会の出場権を得る。

《中女子バレーボール部》 9月17・18日に行われた秋季支部大会では笠岡西中との合同チームとして臨み、準優勝した。また、10月15・16日に行われた秋季地区大会では決勝トーナメントで準決勝で井原中に敗れたものの、代表決定戦で芳井中に勝利し、3位で県大会出場を決めた。11月6日に勝山中で行われた県大会では予選リーグで高梁東中、旭東中に敗れた。

《高男子バレーボール部》 10月に行われた岩手国体に高3福池凌太、森下海斗が岡山選抜として出場し、北海道に勝利し、東京に負けベスト16となった。11月に選手権大会岡山県大会があり、美作、関西に勝利し、準決勝で倉敷商業にストレートで勝利し、決勝戦で岡山東商業に0―3で負け準優勝でした。全国を目標に頑張っていきたいと思います。

《中少林寺拳法部》 8月12日～14日、大阪で開催された第10回全国中学校少林寺拳法大会に、女子団体演武の部（米村、近藤、能勢、塩谷、難波、笠原）で出場。予選敗退。

《高少林寺拳法部》 7月10日に行われた平成28年度岡山県少林寺拳法大会に出場し、男子単独演武有段の部で高2友田が1位、男子単独演武級拳士の部で高2河村が1位、男女組演武有段の部で高2井上が1位に入賞した。

また、7月29日から美作市で行われた中国ブロックインターハイに男子団体演武の部（友田、山中、佐藤秀、河村、佐藤謙、谷、衛本）で出場。予選敗退。

10月29日、30日に開催された「2016年全国少林寺拳法大会inおおいた」に出場した。男子単独演武有段の部に出場した高2友田は予選敗退。男女有段組演武の部に出場した高2井上は敢闘賞（全国4位）。男子単独演武級拳士の部に出場した高2河村は最優秀賞（全国1位）となり、少林寺拳法振興議員連盟会長賞を受賞した。

11月5日（土）に行われた第27回岡山県高等学校少林寺拳法新人大会兼第20回全国高等学校少林寺拳法選抜大会予選会に出場した。男子規定単独演武の部で高1谷が1位。女子規定単独演武の部で高1池田芽が2位、高1松下が3位。男子自由単独演武で高2友田が1位、高1佐藤謙が3位。女子自由単独演武の部で高2井上が1位。女子規定組演武の部で高1池田朱・高1森藤組が1位になった。谷・池田芽・友田・井上・池田朱・森藤はそれぞれの部門で、3月に行われる第20回全国高校少林寺拳法選抜大会に出場

する。

《水泳》 7月16日（土）、17日（日）倉敷市屋内水泳センターで行われた第54回岡山県中学校総合体育大会水泳競技の部に、中2白石亜衣が200m、400m自由形に出場した。

9月3日（土）岡山市立市民屋内温水プールで行われた岡山県中学校秋季体育大会水泳競技の部に、中1安原隆一が100m平泳ぎ、中2白石亜衣が200m、400m自由形に出場し健闘した。

《相撲》 平成28年7月28日に真庭市立蒜山中学校相撲場において行われた、第54回岡山県中学校総合体育大会相撲競技兼第46回岡山県中学校相撲選手権大会個人の部に、中学3年生森永慶之が出場、第2位となった。

平成28年8月10日に雲南市立掛合中学校相撲場において行われた、第32回中国中学校すもう選手権大会個人の部に、中学3年生森永慶之が出場、ベスト8となった。

平成28年8月21・22日に石川県津幡運動公園体育館特設相撲場において行われた、平成28年度全国中学校体育大会兼第46回全国中学校相撲選手権大会個人の部に、中学3年生森永慶之が出場、予選を全勝で突破し、決勝トーナメントに進出した。決勝トーナメントにおいては2回戦敗退であった。

《木綿崎ボランティア部》 8月宮城県気仙沼市において震災復興ボランティアとスタディツアーを実施した。高齢者福祉施設や児童館に訪問した。復興の祈りを込めて金光教気仙沼教会に参拝し、奥原先生より震災当時のお話を拝聴した。9月はほつま祭において東日本大震災復興応援活動として手作りのブックカバーや巾着など物品販売を行った。また金光教のハートフルトレードプロジェクトに貢献した。6月、11月は天満屋イトーヨーカ堂福山店中央広場にて「絆…in福山」に参加した。熊本震災復興支援の募金活動やイベント司会を行った。8月はうぇるかむ笠岡主催の福島県小学生の保養キャンプスタッフとして参加した。10月には浅口市社会福祉協議会主催の「赤い羽根街頭募金」（金光駅、マルナカ金光店）に参加した。また書道部と共同で、仮設住宅で使用するのれんを作る「NORENプロジェクト」に参加した。

《花道同好会》 毎週水曜日に宗教教室で兼信先生の指導の下、熱心に稽古している。

《数学同好会》 7月18日に鴨方ビックハットで行われた、科学の祭典に数学同好会としてブースを構えた。小学生の子ども達に立体づくりやトランプのシャッフルの不思議などを伝えることができた。

《歴史研究同好会》 ほつま祭において集落の形成について調べ、環濠集落の模型を作製して展示した。

《英語部》 部員は現在、高校1年生女子1名。週に一度30分間の個人レッスンの中で、英語の自然な音声やイントネーション、強勢やリズムを習得できるようにトレーニングしている。

《ダンス部》 部員は現在、女子生徒37名（中学生23名・高校生14名）。ほつま祭では〝DANCE！DANCE！DANCE！〟というタイトルで、全部で11の曲に合わせて様々なパフォーマンスを披露した。

《バドミントン同好会》 新入部員も加わって、毎週火曜日に小体育館にて楽しく練習中。

学園だより

終業式 高3は7月16日に、その他の学年は27日、1学期終業式が行われた。式後部活動での県大会上位入賞生徒及び中国大会出場生徒の賞状伝達式と全国大会出場生徒の壮行会も併せて行った。

留学生来校 7月20日～23日、国際ライオンズクラブの依頼を受け、台湾より留学生 林芳儀さんを高校に受け入れた。

特別授業・補習 中1から高2が7月20日～27日まで特別授業を、高3は補習を実施した。また後期の特別授業（宿題テストを27・29日と9月1日に実施）を8月24日～30日まで、高3は補習を同様に行った。

性教育 7月20日、公設国際貢献大学校専任講師の内尾京子先生から高2を対象に「責任ある性」をテーマに性教育を行った。中1は10月28日にDVD「正しく知る！二次性徴Q&A」「男女交際Q&A」を見て感想文を書き、11月18日に男女の身体の相違を理解し、お互いに尊重することを学んだ。

個別面談 中高の全クラスで行われた。1学期を振り返り、夏休みの過ごし方や進路選択等について個別に懇談を実施した。

オープンスクール 7月24日、PART1として第18回目の一日入学が行われ、小学生や中学生および保護者を合わせて1280名の参加があった。授業体験や部活動体験を通して、金光学園での生活の一部を楽しく体験した。また、9月10・11日、PART2のほつま祭でも多くの小学生が参加した。10月1日、PART3の中学体育会は降雨のため中止になった。

金光学園杯小学生招待バレーボール大会 9月4日、第14回のバレーボール大会がほつま体育館で行われた。13チーム（選手約150名）の参加があり、レベルの高い熱戦が繰り広げられた。

教職員夏季研修 8月22・23日、全教職員が参加して30回目の夏季研修が行われた。初日は探究開発部、SSH・SGH関連委員会より『ポストSSHを考える』というテーマのプレゼンのもと問題提起があり、9グループに分かれてグループ討議をした。2日目はリクルートによるスタディ・サプリ、ベネッセによるClassiの紹介など学習支援サービスの研修に参加した。後半はNTTによるパソコン（Windows 10）講習と岡山血液センターの講師によるAEDの講習に分かれ受講した。実り多き研修会となった。

始業式 9月1日、中高合同で2学期の始業式が行われた。校長式辞の後、生活課からの諸注意、生徒会課から夏休み中の部活動及び生徒活動の表彰があった。

教育実習 9月1日から14日あるいは21日までの期間、卒業生1名が2週間または3週間の実習を行った。

街頭交通指導 9月1日から6日まで教員が通学路に立ち、交通安全・交通マナーについての指導を行った。また、21日から30日まで「秋の交通安全県民運動」に合わせて指導を行った。

ほつま祭開催 9月10日、11日、「咲～笑顔を咲かせよう～」をテーマに創立122年目のほつま祭が開催された。オープンスクール（両日開催）や友愛セール（日曜日）も多くの参加者で賑わいを見せた。

進路委員会 9月13日、23日、高3の

先生が中心となって、指定校推薦の校内選考を行い、大学への推薦者を決定した。

霊地親睦の集い　9月18日、霊地各機関対抗の球技大会（バレーボール）が行われ、学園教職員が参加した。親睦を深めることができた。

高校体育会　9月21日に予定されていた体育会は、台風16号による降雨のため、23日に延期されて行われた。

教祖生誕前夜奉祝行事　9月27日、開催の予定であったが、雨のため中止された。

塾対象入試説明会　9月27日、朝2時間は全学年全クラスを授業公開し、その後の全体会では平成29年度の中学・高校入試などについて説明を行った。

高校進学懇談会　9月28日、公立中学校の先生方を対象に平成29年度高校入試の説明等を行った。

京都アメリカ大学コンソーシアムの来校　9月30日、浅口市国際交流協会が主催する京都アメリカ大学コンソーシアムの留学生27名が来校し、文系探究Ⅱ発表会に参加した。

文系探究Ⅱ国際化中間発表会　9月30日、高2文系探究クラスの国際化中間発表会が開催された。グローバル経済、教育・Anime & Cartoon、岡山再発見・NIPPON QUESTの3グループに分かれて英語でプレゼンテーションを行った。ゲストに京都アメリカ大学コンソーシアムの学生を迎え、発表者は英語の質疑応答に戸惑いながらも、日ごろの研究成果を発表できた。また、今後の課題が明らかになり、最終発表や論文作成へ向けてモチベーションを高めることが出来た。

中学体育会　10月1日、前日から続く雨のため、十分なグランドコンディションではなかったが、中学体育会が開催された。しかし華やかな踊りやマスコットが兄弟学級の団結力を示した応援合戦に彩りを添えた。

高2大祭奉仕　10月4日6・7限に金光教本部で清掃奉仕を行った。

高3大祭参拝　10月6日、心の教育の一環として、高3生徒全員が金光教本部での生神金光大神大祭に参拝した。

遥照登山　10月6日、中1は遥照山登山を行った。深まり行く秋の中、楽しいひとときを過ごした。

進路学習　10月14日、中2は講師に高49回卒の塩田慎二氏を招いて「言葉の持っている力」や「1つのニュースが制作されるまでの苦労」について話をうかがい、アナウンサーの仕事を考えた。11月11日、中3は高校からの学習活動に備えて進路適性検査を実施した。高1は10月の第4週、クラスごとにパソコンを利用して大学での学びについて調べ学習を行った。また、高2は10月28日中心にクラスごとに個人の希望に合わせて各大学の講義を視聴する機会を持った。

進路講演　高1と保護者は10月7日にベネッセコーポレーションの荒武遼氏による講演『希望進路実現に向けて』を、中1・高2は11月1日、高29回卒の本多正識氏による進路講演『自らの未来を拓く進路を考え、合格へのアプローチを知る』をそれぞれ聴いた。

金光学園杯小学生卓球大会　10月10日、第16回の卓球大会が小体育館で開催された。男女17チーム（111名）の参加があり、シングルスで男女別に優勝杯を競い合った。

教育相談保護者会　10月15日、安原こずえ先生を講師に、4名の保護者と教育相談員とで交流会が行われた。

心の教育　10月21日に中1は金光道晴校長から『金光学園の歴史を学ぶ』と題した話を聴き、創立記念式を前にして金光学園の精神を学んだ。

中学・高校入試模擬テスト　10月22日、来春の中学校入試を受験する小学校6年生を対象に、11月3日、来春の高等学校入試を受験する中学3年生と学園の中学3年生（希望者）を対象に模擬テストを行い、多くの受験生が本番さながらに挑戦した。また高校の推薦入試受験希望者には面接を行った。その後、入試説明が行われ、それぞれに平成29年度入試についての説明を行った。

ジェネシス2.0中国高校生来校　10月28日、中国から28名の高校生が来校した。歓迎会の後、音楽や英語の授業を受けた。放課後は部活動体験をし、送別式を行い帰国した。

ロードレース　11月9日、中学校全体のロードレース大会が行われた。男子は4キロ、女子は2キロのコースをそれぞれ力走した。

読書会　高1は11月11日に、高2は10月7日に、中3は11月25日に、中2は11月21日に、中1は11月22日にそれぞれ学年で希望の本を選び、各グループに分かれて、意見交換をした。

人権教育　中1は11月11日に「いじめ」撲滅について、行動宣言を書き、各クラスの行動宣言を作った。中2は11月8日にビデオ「ひめゆりの塔」を見て感想文を書き、話し合いをした。また、中3は10月15日にビデオ「どんぐりの家」を見て、感想文を書いた。高2は11月11日、名古屋女子大学 三宅元子先生から「ネット社会を上手に生き抜くために」という演題で講演をうかがった。

教科担当者会議　中1から中3まで、日頃の授業の様子や中間考査の結果についての情報が交換され、個々のすぐれた点や改めたい点が指摘検討された。

EUがあなたの学校にやってくる　11月14日の7限目、ギリシャ大使館よりルカス・カラツォリス大使が来校され、高1、高2探究クラス、希望者、保護者を対象に大講義室にて講演を行った。

創立122年記念式　11月16日、創立122年の記念式がほつま体育館で厳かに挙行された。生徒代表 目黒達之君の所願表明は、大変すばらしく後輩にとっても大変な元気を与えてもらった。式典後、辻　範明氏の記念講演が行われた。「人生 何事も塞翁が馬 失敗・挫折を恐れるな！」という演題で講演していただいた。生徒は学園の歴史の一端を感じながら前向きにチャレンジすることの大切さをじっくりと考える機会になった。今後の生活に大きな示唆を与えていただいた。

サイエンスチャレンジ岡山２０１６　11月19日、きびじアリーナで開催され、昨年に引き続き本校からも科学系部活動を中心に2チームが参加した。筆記試験と3つの実技競技（化学・物理部門、生物・地学部門、工学部門）が行われた。

金光学園サイエンスチャレンジ　11月23日に小学4～6年生を対象に開催した。（27名参加）ブロックを用いた図形の作成、泥水のろ過、フィールドワークなどの競技に4人1組で取り組んだ。

お祝い　高校の横山俊則教頭には岡山県私学教育功労者表彰を、垣内寿生先生には私学協会功労者表彰を受賞され、お慶び申し上げます。久繁正人先生には8月18日にご結婚、滝澤有美先生には10月10日にご結婚、北川弘樹先生には11月19日にご結婚お慶び申し上げます。塚田佳恵先生には11月24日に長男のご誕生おめでとうございます。

高２修学旅行

北海道コース

オーストラリアコース

シンガポール・マレーシアコース

教室の窓から

エアコンフィルターの掃除

教室に暖房が入る季節になった。暖房を入れる前に、エアコンのフィルターを掃除しなければならない。エアコンからフィルターを外し、ほこりを洗い流すのだが、この作業は意外にも人気で、毎年必ず率先してやってくれる生徒がいる。普段の掃除には格別熱心ではない生徒（失礼）も、エアコンフィルターの掃除には真剣である。

「背が高い人お願い」と言っているにも関わらず（そう言われると余計に、低くてもできる！と思うのか）、「いや俺が！」と数名が名乗り出てくれる。あっと言う間に机といすを重ねて土台を作り、「持っといてよ！」とよじのぼり、時には窓枠も支えに使いながらフィルターを外す。下では受け取る人が待ち構えている。水道に洗いに行き、ほこりだらけのフィルターが元の黒色になると、満足げな顔で帰ってくる。「ほこりが落ちる～」などと言いながら周りの物をよける女子。仕上げにエアコンを拭き、フィルターを乾かす。乾いたフィルターをつけるときも、ちょっとした騒ぎである。

この騒ぎが、私は好きだ。まず、生徒の個性がよくわかる。とにかく高いところが好きで、終わった後もなかなか下りて来ない生徒がいる。家でもよく手伝っているのか、要領よくフィルターの外し方の指示を出す生徒も。ほこり一つも残さないようにきちんと洗う生徒。干しているフィルターが風で飛ばないようにと工夫する生徒。さりげなくほうきを持ってきて、落ちたほこりを掃く生徒。席に座って終礼の準備を始めているが、騒動にくすっと笑うおとなしい生徒。なんてそれぞれ違うのだろう！と感心する。

そして、さりげない連係プレーが見られる。大きな行事での一体感も感動的だが、生活のための協力は見ていて清々しい。こういうときに、机を揺らすなどして邪魔をする生徒はほとんどいない。いたとしてもお互いに注意し合い、私の出る幕はない。どうのこうのと言い合いながらも無事フィルターをつけ終わり、暖房が入ると「おぉ」と教室に小さな感動が生まれる。すぐに薄れるような感動なのだが、ほのぼのと心穏やかになる光景である。

先日、息子の保育園で個人面談があった。「みんなクラスのお手伝いが大好きです。任せてもらえると子どもはうれしいんです。家でもお手伝いをさせて、ほめてあげてくださいね」とのこと。なるほど、中学生になっても確かにみんな「お手伝い」は好きである。「三つ子の魂百まで」と言うが、任せてもらえるうれしさは中学生にもあるのだろう。彼らは、教室に暖房を入れるというミッションを背負っているから、あんなに真剣なのだ。

中学生になると、何事も成績や結果に目が行きがちだが、かつては簡単な「お手伝い」ができればほめられていた。それが今や、仲間と協力してエアコンの掃除ができるまでに成長したのだ。すばらしいことなのに、できていることは当たり前になってしまって、なかなかほめることがない。よし、次のエアコン掃除のときは、騒ぎを楽しむだけではなく次につながるような言葉かけをしよう。さて、何て言おうか…。

エアコン掃除にまた１つ、楽しみが増えた。

編集後記

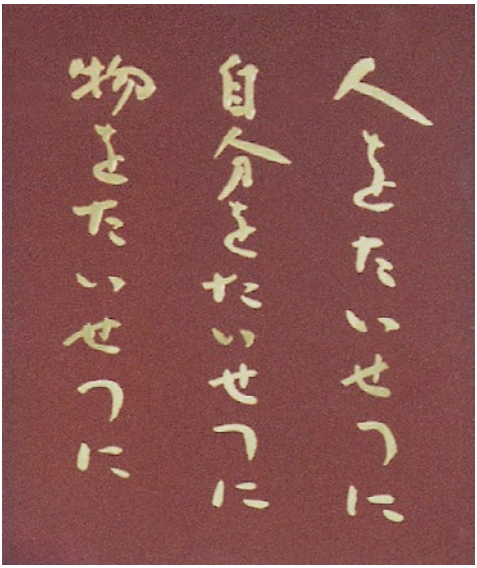
先日やつなみ68号（昭和40年11月20日発行）に目を通す機会があった。当時10月27日P、Tそれぞれ10人ほどが集まり反省会を開き、望ましい「やつなみ」の姿について活発に話し合った、とある。学校行事、生徒生活、進学の材料で親の啓蒙されるもの、生徒の家庭生活を指導するものや生徒の声など…。現在のやつなみ編集会議はここまでできていないが、各学年の課員に依頼し、保護者・生徒・卒業生・教員などの協力を得て記事をまとめている。

さて、学園創立122年の記念式典も滞りなく終えることが出来た。特に、生徒代表の所願表明は各方面より絶賛されるほど素晴らしいものだったので、ぜひご一読を。

今年、イギリスではEU離脱が問題になり、そしてアメリカ大統領選挙では番狂わせで共和党候補のトランプ氏が民主党候補のクリントン氏を破った。未来を予測することが困難な時こそ、初心を大切にしたい。初心に戻って生徒にもやつなみにも向き合いたい。

ここにやつなみ246号をお届けする。いよいよ２０１７年。どうぞよい年をお迎えください。

平成28年12月14日印刷
12月20日発行
編集者　金光学園やつなみ保護者会　やつなみ編集部
印刷所　倉敷市船穂町船穂二〇九五―一一　玉島活版所
発行所　浅口市金光町占見新田一三五〇　金光学園内　金光学園やつなみ保護者会



◎ほつま ＝ 秀真

非常に優れ整い備わっていることの意。
「日本という国」の古異名の一つ。
創立後、生徒会や冊子の名に使用。
ほつま体育館、ほつま祭などで使われる。

◎やつなみ ＝ 八波

どこまでもひろがり栄えゆく願いをこめる。
金光教・学園・中学・高校の徽章のふちどり。
ＰＴＡ機関誌創刊当時、会員から公募してつけた。

人をたいせつに　自分をたいせつに　物をたいせつに

http://www.konkougakuen.net
E-mail　info@konkougakuen.net